

川柳の雑誌

十月号



麻生路郎☆主宰

No. 401

Pensoj flugas trans la land-limon

THE SENRYU ZASSHI

昭和廿五年
月一回
日光市
三種
十五年
十月
毎月
月刊
大正十三年・通巻四〇一
創刊

川柳雑誌社主催

—11月本社句会—

議員
生き写し
石段
乗り連れ

〃兼題〃

本社十月句会

会場が変わりました。

やつと改装が成り、爽秋十月句会から

もとの大阪観光ホテルで開催します。

新しい方を誘つてご出席ください。

日時 十月七日(金)午後六時

場所 大阪観光ホテル(3508番)

市電道頓堀電停東へすぐ
(日本橋北詰東入る)

兼題

「古本」(二切)

麻生路郎選

落語選の入選免表は十一月句会の会場で販売します。
(引後の投句は無効となります。句集の裏に販賣記入)

「貯金」(三切)

北川春巢選

「非常口」(三切)

菊沢小松園選

「わが家」(三切)

戸田古方選

題(当日発表)

川村好郎選

柳話
アメリカ土産

足立春雄選

呈賞

☆各題天位 ☆路郎選天位に不朽洞賞

会費百円

幹事 紫香・淡舟・いさむ・潮花・文秋・庸佑・狂二・

与昌志・白木・木堂・月都・薰風子・赤郎・舟遊・
柳家子・一三夫

★投句だけの方は郵券三十円

同封(切毎月五日)

大阪市住吉区万代西五丁目廿五番地

川柳雑誌社句会部

電・住吉(6081)

あなたの句帖が
出来ました

★路郎好みだけに、すばらしく気が
きいています。句会でお使いになる
なり、抜けた句の整理にお使いにな
れば、何冊かで、あなたの句集の確
稿が出来ます。又柳友への贈答に、
句会の賞品にも最適です。是非ご利
用下さい。

一冊五五円・送費八四・十冊五〇〇円

大阪市住吉区万代西五丁目



川柳雑誌社

電話大阪(6081)

振替大阪七五〇五〇番

麻生路郎先生著
川柳とは何か

送価
三五〇円
三三〇円

—川柳の作り方と味い方—

川柳はわれわれ庶民の偽らざる声である。

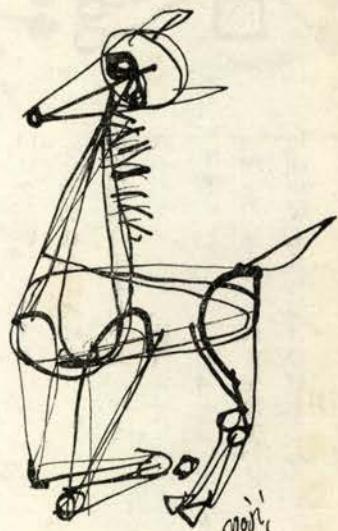
絶叫・嘆息・嘆声・嗚咽——そうしたもろ
もろが十七音に圧迫された諷刺と諧謔の短
詩型、それは伝統的であると共に常に革新
的であるその川柳がいかにして発生し、經
過し、今日に至り、将来に動くか、しかも
その作り方は、味わい方は——以上を最も
明快にわかりやすく、斯界の第一人者たる
著者が答えているのが本書である。

至文堂

東京都新宿区払方町27 振替東京29507

不朽洞句帖

麻生路郎



- フルシチヨフほどではないが遠慮せず
胸くそ悪し 代議士の低姿勢
孫が去んで元の無口になる夫婦
孫の写真を何枚撮るんだ
「マドンナ」に見降ろされてるベッド
- 菊田一夫作「がめつい奴」
- 見栄ばうの底辺に触れたロングラン
「がめつい奴」を観ても笑って済ましきとき
「がめつい奴」を商策にする社長

川柳雑誌十月号目次

不朽洞句帖	麻生路郎	(3)
川柳繼承	田中美喜子	(10)
川柳の大衆性	後藤梅志	(34)
羽田を発つて	麻生アト	(16)
ブライス教授の英譯川柳を再読して	足立春雄	(14)
輝やく巨歩	阿部佐保蘭	(13)
前田雀郎自選川柳三十五句	R·H·ブライス訳	(12)
★現代柳人録	伊達堰子	(36)
句評リレー	香林・鳥飼	(25)
★川柳書架	戸田古方	(36)
誌壽四百号記念祝賀川柳大会	富士野鞍馬	(32)
絵と川柳で表現する歴史	不二田一三夫	(33)
衣通 姫	東野大八	(18)
髪の名は	諸麻生路郎選	(9)
上から下まで	北川春巣選	(20)
同舟近詠	生麻乃選	(33)
柳泥塔	福乃選	(20)
各地柳壇	那谷光選	(41)
柳界展望	福田妄選	(42)
各金作	中島生々庵選	(4)
近作柳樽	夢選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選	(4)
近作柳樽	選	(33)
同舟近詠	選	(20)
柳泥塔	選	(9)
各地柳壇	選	(4)
柳界展望	選	(33)
各金作	選	(20)
近作柳樽	選	(9)
同舟近詠	選	(4)
柳泥塔	選	(33)
各地柳壇	選	(20)
柳界展望	選	(9)
各金作	選</td	



紙治でも米そうに格子灯がともり
舞い扇たためば女史の顔になり

祝大谷月都君長女誕生

一姫へもう父の夢母の夢

大阪市 西 いわを

悪らつな性なら定年迄も居ず

批評してくれとは讀めてもらいたく

仏檀も買わず自家用乗りまわし

旧家にもよろめく人の離婚沙汰

足どめのつもり一升留守へ置き

永年の経験進言受け入れず

票読みの誤算は金に頼りすぎ

岡山県 直原 七面山

郷愁の臉の底に水車小屋

氣短かな父だが恋の邪魔はせず

ライオンの様に喚いて見たき年の瀬

カバよおいらも大きな欠伸して見たし

腹上死と聞いて親せきまで笑い

好きなこと喚めかせとて手錠かけ

お通夜までゴルフ談義のはずむこと

大阪市 須崎 豆秋

病人の耳へ夜通し水が漏れ

やせすぎて検温計がまさまれす

絶対安静馬鹿正直の姿なり

大阪市 正本 水客

事故現場今年も月見草が咲き

六十のファイトへ社員傾聴し

皿くぱり終えてボーキの白うごく

大阪市 丸尾 潮花

バスと云う地位は子供の世にある
騙されて欺して女強くなり
鉢巻を外して今日は教育家
堺市 吉田 圭井堂

助手席に乗せて登校のママ得意

家計簿をきつちりつけてメメとらず

人妻が赤毛で足らず爪も染め

よろめいて来たとは知らずつけまほか

防府市 長野 井蛙

足どめのつもり一升留守へ置き

永年の経験進言受け入れず

票読みの誤算は金に頼りすぎ

岡山県 直原 七面山

郷愁の臉の底に水車小屋

カバよおいらも大きな欠伸して見たし

腹上死と聞いて親せきまで笑い

貴われて行く子の鼻を拭いてやり

ああ青春故陸軍歩兵上等兵

月だけを残しナイターみんな消え

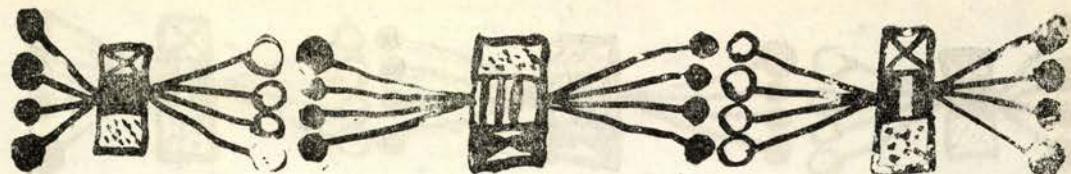
大阪市 西森 花村

八月十五日夜通し虫も鳴いていた

鳥取市 河村 日満

二十年さきの話の隠居部屋

函館にて



半袖を振りかえられるほど涼し

手はじめがさのさ安来で締めくくり

倉敷市 木 村 千 容

あと腐れ拭うてくれる妻がいて

濡れ衣を着せて妬心の憚らず

加賀市 野 村 味 平

関節と汗症を病む

膝頭切つたらどうとからかわれ

色づいた柿へ消息まだ知れず

大阪市 木 村 水 堂

解散が近く大臣よく笑い

幽霊の出そなとここで逢曳きし

のんだくれでも父ちゃんは好きと云う

葬式がだぶって代理いそがしく

大阪市 福 田 丁 路

大げさな愛の験の身のこなし

恐るべき次代を荷う子の遊び

哀れなるかや選挙に備え平伏し

奥の手は三拝九拝すり泣き

盛岡市にて

東北弁を大阪弁で聞き返し

通訳がほしい東北弁の美人

座して食うて泰山に似たお女将さん

蜘蛛の足が一本折れている凄み

頭数だけの男に椅子机

大和路で

山の空家にベンベン草が持つ凄み

大阪市 後 藤 梅 志

人間ドック以来神経質になり

ストリップ見てたと子供等に云えず

みな蝶は高いところに高野山

テレビ見て弱い巡査にあきれ果て

引導を渡すに眼鏡かけている

禿げっぶりも後ろは他人任せなり

米子市 小 西 雄 々

愛嬌は悪し三代婚養子

につこりとせずたのもし婦人科医

大阪市 山 川 阿 茶

手料理で招ぶ自信つけ嫁にやり

赤札の浴衣と知らずほめちぎり

大阪市 金 井 文 秋

万引に狙われだしてからはやり

洋服屋のウインドカッズ売る如し

よそさんの本借って来る本屋の子

月賦とは縁が切れぬ見栄を持ち

加賀市 那 谷 光 郎

キャンデーの捨てた箸にも蟻が集り

もう下駄箱と言ひモダンな靴ばかり

岡山市 浜 田 久 米 雄

東京滞在二週間(四句)

東京にちよい中美人すれ違い

ラッシュとはこんなに多い人いきれ

銀プラで大阪弁に耳を立て

もう用のない東京を見捨てたり
大阪市 菊沢 小 松 園

人間ドック以来神経質になり

ストリップ見てたと子供等に云えず

失明のそれから人間出来て来る

しぶちゃんの財布覗けぬ位置で開け

叩かない親と子供等見くびって

絶景へ身の毛のよだつ家が建ち

岡山市 逸 見 灯 爪

台風にとじこめられた子の将棋

出雲市 尼 緑 之 助

月が出たのにむつつりとした炭坑

弱肉強食蚊はたたかれた

わからない唄がはやって老い初める

おしばりへ胸毛を出して遠慮せず

チンドン屋だまつて歩いて黄昏れる

独り者貯金の残りまた調べ

ガム噛んで電話の順を待つて娘

夏に負けるなど今日も天ぶら揚げる妻

京都府 大 鶴 喜 由

闇外に宿り台風聞く生活

勤めていれば云うてくる娘の口

東京都 山 根 白 星

溜息は妹の器量持たぬ姉

ブローチの下真ごころのあるやなし

折檻の傷を実父にさえ見せず



忘れ易きものに人の名女の名

不自由な脚で仕立屋立ち上り

大阪市 富岡 淡舟

ピタミンをのんで居ますとやせっぽち

定年で家建てるのが望みだけ

奈良県 飯降白香

養老院ここでも金がものを云い

自家用車家族も犬も乗っていて

ニコヨンの臭氣紛々街を行き

岡山県 福島 鉄児

いちじくに似てる女のなまめかし

青リンゴの如し女にまだなれず

岡山市 服部十九平

砂埃今日はデイトの場所を変え

命なき砂さえ握れば音をたて

砂を敷く敷かぬで奉迎委員揉め

尾崎市 長谷川三司

お小づかいだけよと女勤めに出

爪弾の主はシミューズ一つなり

二本立てきょうも隣は鍵をかけ

大臣もカレーうちの子もカレー

かすかな風をほめる病人

叡山に行こかと涼しがらすなり

大阪市 山本葉光

幸福は腹の底から沸く笑い

道芝の運命そのまま吾がさだめ

岡山県 岡田夜潮

恋文がマジックインキじゃ太すぎる

児島市 本田恵二朗

カレンダー運にまかせた日が並び

京都市 松川杜的

堕ろしてきたのはつきり女事務

岡山市 津田麦太樓

臆くうな親と子供はもう悟り

汗たのし老のいのちの鍼を打つ

おじやちぢみアップの襟の涼しそう

後と釜に婦長あがりを入れて病み

晴耕の指にささったバラの棘

堺市高崎雄声

赤いシャツ男にお株奪られたり

迎え舉輪をとっても嬉しくて

無いものはほざけ金権候補勝ち

島根県 藤井 明朗

こだまする汽笛へ秋を意識する

流行を追うて女に秋がくる

岡山県 永松東岸

ひなた水見たいな愛が物足らず

妻までも出世に利用する恐さ

ラムネ飲むようにビールを飲んで去に

倉敷市 野田素身郎

夕立へ二階の夫使われる

子供までいるのに愛称で呼ばれ

ハンドバッグ口金の音で買ひ

かなづちのママに貸しとく浮袋
賭け麻雀の話吊皮持ち変える

店はひま妓にみんな呑まれとり

女給に無視されチップまたやつた

自信ある姿ぱりぱり使うとり

一本のビールも妻の監視つき

酔いどれの眼へひょきんなボリスマン

大阪市 伊達堰子

観光バス地獄谷見る客で混み

混浴と判れば俺も男なり

大阪市 不二田一三夫

デュオ・ヘアで岸恵子帰日

真知子巻き残し デュオを持ち帰り

タニシ冠つたようなデュオ街をのし

台所スイッチだらけで何か焦げ

兵庫県 酒井ひか平

おばあちゃんまでがビタミン二つ飲み

どっから口説きやはつたと娘に聞かれ

不覚にもお釣り渡せば握手され

自惚れの胸毛わざわざ引っぱらせ

父の夢娘の鼻をつまんで見

大阪府 深見雅堂

冷房とアスファルトセールス楽でなし

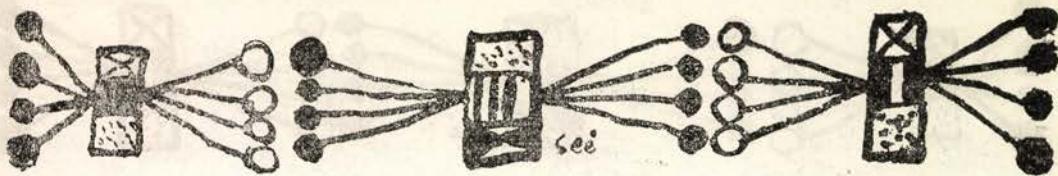
今日の糧車巻ですつたらしい下駄

神戸市 丸川初甫

かかづちのママに貸しとく浮袋

賭け麻雀の話吊皮持ち変える

岡山県 池田古心



パラソルに流行がある柄の長さ

放言はほんとのことを云うただけ

西宮市 野呂鶴汀

防犯長しててまんまと詐欺にあい
父親が眼をそむけてる娘のボーズ

親切が何時か噂の的となり

大阪府 林

昌男

発奮をすれば女房が不安がり
愛称で言えばつきり思い出し

朱提灯おうた子だいた子一つずつ

堺市 田中狂二

血を売ったお金窓口から貰い

奥さんになる人らしいと見抜かれる

紅白にわけて婦人に勝たせる気

堺市 中狂二

おないどしで大臣こっちは小百姓

家だけの豊作でなきや氣にいらす

子が二人花も金魚もあきらめる

堺市 狂二

隠さない乳房哀に萎びとり

金の要る恋とわかつて捨てられる

紅燈の媚と思えど又おぼれ

堺市 光輪

警察が落した場所をきめてくれ

刺青は見せとくはない長いシャツ

大阪市 村山光輪

おないどしで大臣こっちは小百姓

相談にまたも同情しどうなり

狂人と同んなじ位置の泣きぼくろ

大阪市 河井庸佑

コマーシャル美人は麦をたべて居り

ビタミンを野菜ぎらいの腕にうち

油絵を替えて暑さに堪えんとす

大阪市 谷沢好祐

二次会のマッチを妻に見せて寝る

雑音は聴かないことに癖づける

ジャンジヤン横丁刑事に背中叩かれる

堺市 木山遠二

浮気には定年なんかないらしい

大阪市 石倉旗風蘭

堺市 木山遠二

朱提灯おうた子だいた子一つずつ

口紅も濃ゆく観光用の海女

大阪市 横瀬潮風蘭

堺市 木山遠二

おないどしで大臣こっちは小百姓

芳基法無視した様にこき使い

ビタミンを野菜ぎらいの腕にうち

油絵を替えて暑さに堪えんとす

堺市 木山遠二

おないどしで大臣こっちは小百姓

狂人と同んなじ位置の泣きぼくろ

油絵を替えて暑さに堪えんとす

堺市 木山遠二

おないどしで大臣こっちは小百姓

愛媛県 横瀬紫光

テレビ料理メモしたまま食べさせず

おばさんが呉れて煙草も不味くなり

ぬけぬけと相談欄でまで惚気け

川柳継承



田中美喜子

安五

大段おどし
丹青堂
セニ・セニ

色紙短冊
書画用品

風俗等々歴史の上にもさまざまに投影されている事を知るのである。

中には聞きかじりの句やもじった句や他方に重点を置いた句も相当多いのは作者が武士、大名ばかりでなく一般庶民が多数あつた事を物語るのも当然だが。日本文学を反映させて、

都鳥今に吾妻のなみだ雨

(樽三七)

梅若忌(旧三月十五日)この頃雨多く
の日降る雨を梅若の涙雨と言う。

あわれさは氣狂のくる一周忌

安五

の戒に止まっているのを認めないわけには

いかない。気魄の不足人生觀の浅さが目につくのは致し方がないのだ。が当時代の背景や思想を考慮すればやむを得ぬ事でもあるし、古句は古句としての幾多の名句は充

分その良さを学び味わうべきだと思う。主として四書五經に漢詩其他に磨かれた謡曲愛誦時代に対比して現代文化の進展はマスコミと相俟て庶民の教養の程度も別な意味の著しい変化と発展とを遂げている。自由奔放、千変万化の題詠が川柳に及ぼす影響も多大である事も從つて当然であろう。

まわねばならない事は、川柳も題詠はそれとも知らず、その雰囲気にびつたりと合致させて、冠付のようにならない句が文学性等から見て大切であろう。江戸文化最盛期の教養と現代の教養その学力等の観点の種々の相違を考慮しつつここに掲げた謡曲題

複雑な現代に於いての人間関係をスムーズにするため、その努力と理解を深める事は大切だがより一層美しくするための教養とかそのための人生觀を深める事の重大さを人は忘れてはならない。社会生活上、相

(2) 昭和と川柳

(1) 謡曲の中の川柳

あの偉大な堆積には驚くが、歲時記の圧縮された日本語の美しさには魅せられもある。将来どれ程増えるものか風習の項に思ふ。故人追慕の表示であろう。古いと云ふのがある。概して文人俳人の名を連ねてある。概して文人俳人の名を連ねてある。故人追慕の表示であろう。古いところで『梅若忌』と言うのが春の部にあるが言うまでもなく謡曲の『角田川』『都北白河吉田少将惟房郷の独り子が人商人にさらわれ隅田川のはとりで病死する。時に十二才、木母寺の梅若塚がその墓。この哀話と謡曲『桜川』とで賤職帶と言う長唄の名曲、作曲共々優美、古今集や業平の歌さては桜づくし蝶鼓舞と狂乱の母が散り浮く花を揃うあたりの風情は情趣豊か。これ等く出でているが『子を思う道に迷ふとは今こそ思ひ白雲の』と念佛唱妙の中にまさしく我が子の称名を聞き「声のうちより幻に

見えければ』

「いよいよ恩ひはます鏡」「我が子と見えしは塚の上の、草茫茫として駄ばかりのあさちが原となるこそあはれなりけり。」と終つてゐる。

謡曲の本質は言うまでもなく幽玄、ここに何故謡曲を掲げたかと言う事は江戸時代これが隆盛を極め諸大名武士等争つてこれを嗜んだとある。能樂を式樂とまでなし上下に普及をつとめたと言う時代、謡曲の文章は源氏物語と、ともに難解で古事引用等々煩らわしい。謡曲作者は別としてもこれ等口誦にのせる人々も相当学力を要した事は察せられる。幕府が謡初めを恒例として催し能樂狂言等には町人の主だった人々も城内招待さし許されたとある。何百とある昔からの夥しい謡曲作品と共に生活した階層が当時のインテリであつた事にまず間違いはないと思う。この人々によって詠まれたでもある謡曲を取り入れた川柳作品が非常に沢山残されている事は当時の人情

を学び頗る合う人生のむずかしさ。

かつて家永三郎氏はかく言われた。(昭和35年1月日本文化の将来の中より)

『民主主義を占領軍からの「配給」として片づけるのは一面的である。日本の民主主義がたとえ細々ながらにもせよ日本民衆の間で守りつづけられて来た尊い文化的伝統』と言つており、日本民衆の文化継承発展を心から望んでいた。全く貴族の創造になる宝物其他の文化に縁遠いのは庶民達である事を知らされる。正倉院も桂離宮も知らずに終る寒村離島の人々、或は富士山も遂に見ずに死んで行く人達の何と多いことか。

これ等の人々が生みだすさやかな文化の素朴さは民主的基盤の上に立つて今少し高く評価すべきだ。そして現代この人達には気安く物を言い合う自由と広場だけが残された樂しみかもしだれぬ。

海暮れて鴨の声はの間に白し

互いに相手と呼び交し笑いかけ話しかける時、其處に湧くのが人間の真実味、何のてらいもみせかけもない庶民の誠実のまなざしだけがある。人間は到底孤独では長くいられるものではないのだから。これ等の人々の不幸は大学で学び得なかつた事、又は貧しい生活に病み疲れ果ててゆくものもあるうしささまざまだ。が一様に現代は苛烈な世界情勢の不安におののき勝ちな事は誰しも同じだ。

寄り處を絶えず求めつつ希望を捨てず、

あせりながらも努力し合う姿は美しいものだ。最底辺文学と言われる十七文字文学が

其處に根を張つてぐんぐん育てられて行つた事に何の不思議もないのだと思う。日本

庶民の獨得のつぶやきがこの川柳となり、その哀歎が十七文字となつて吐露されてゆ

き理解を求めるべきだ。たとえインテリもジャーナリストも無関心でいようとも

捨てようとも。

芭蕉が旅から旅に老をいとわず庶民の生活を自然と共にかけ巡りつつ味わいその中

に浸透し切つて庶民の情感を身をもつて体験しつづけその喜びも悲しみも胸に痛い程

沈潜されたところの結晶が数々のあの名句となって人々に沁みと迫つて来る世界を創造していくのだ。俳諧柳多留初編が世に出たのが(一七八四)俳句及び川柳の成立

を考える時俳聖芭蕉の偉大な感化を強大に受けている恩恵を今更のように氣付くのである。芭蕉初期作品に、

出たのが(一七八四)俳句及び川柳の成立

を考へる時俳聖芭蕉の偉大な感化を強大に受けている恩恵を今更のように氣付くのである。芭蕉初期作品に、

出たのが(一七八四)俳句及び川柳の成立

を考へる時俳聖芭蕉の偉大な感化を強大に受けている恩恵を今更のように氣付くのである。芭蕉初期作品に、

出たのが(一七八四)俳句及び川柳の成立

を考へる時俳聖芭蕉の偉大な感化を強大に受けている恩恵を今更のように氣付くのである。芭蕉初期作品に、

出たのが(一七八四)俳句及び川柳の成立

を考へる時俳聖芭蕉の偉大な感化を強大に受けている恩恵を今更のように氣付くのである。芭蕉初期作品に、

した俳諧柳多留、これ等十七字を固執する、この世界が現代に於いてどれほどの進

展を見せたであらうか。その点何か心細い

も人間は詩を愛し育てたい気持ちを絶えず抱いているものである以上当然の事であろ

う。人間胸底にひそむさやかながらもそ

の芸術性を引き出して行く事が人間に希望を与えて向上への一筋の光明となる、

これ無くして川柳の前途も考えられぬ。庶

民文学の永遠性とは今後なおも人間の不思議を取り組む心理探求、あの善惡相反する

二面、そして、人間が引き起す戦争、水爆を創造した魔力等を考えると、神人達にも拡大されて行く領域の前途の責任は重い。

安保も三池争議も津波も悉く深く掘り下げてゆき上すべりにならない事こそ大切と思

う。時代と共に歩みつよりよき住みよき社会に方向づける一人一人の協力の集積こそ尊いものなのだ。我が國の小説が90パーセント恋愛ものであるところによき諷刺は育たないとは亀井勝一郎氏、国際会議や学術會議でコチコチでユーモアもウイットも乏しいと嘆くのは中山伊知郎氏、何か日本文化の跛こで欠陥ある事を物語るよう仕方がない。底辺文学、庶民文学と言われる川柳が何等かの形で啓示を与える事もあらば結構な事と思う。川柳繼承の使命と

古川柳といふものを一般読者に読んで頂くために、極く著名な句のみを選んで解説を試みた。唯それだけでは読物として趣味が偏るので、拙文隨筆をも若干挿入した。パンの間にハムや辛子を入れた

ような積りである。健啖な読者は、ためらわず頭からもりもり食べて下さい。

(以下略)

一九五六年十月一日

山路閑古

★目次の大要を挙げると、

川柳とは。季節。人間。職業。生活。歴史。地理。遊芸。用具衣服。動物植物。の俳句に象徴的作句を見せている事は驚異の価値。

○六頁、定価二二〇円。発行所東京都港區芝浜松町二ノ一五、美和書院。

★苦しますに、古川柳の味が判る書。

續

川柳歳時記

(2)

(山路閑古著)

前田雀郎自選川柳三十五句 (2)

アル・エッチ・プライス訳

Thirty five senryu (Witty Japanese Verses of the shortest type)
self-selected by Maeda Jakuro Translated by R. H. Blyth

流れ見ており 身の上を見詰めおり

Nagare miteori minoue o mitsume ori
Staring at the current,
Staring
At my Life.

不見転も 客も黙つて 朝のお茶

Mizuten mo kyaku mo damatte asa no ocha
The prostitute and the customer,
Both silent
The morning tea.

鮎二ひき 託く焼かず 盤の上

Ayu ni hiki shibaraku yakazu sara no ue
Two fresh-water front,
Leaving them on the plate,
Not broiling them for a while.

寝る智恵も いろいろにある 夜の汽車

Neru chie mo iroiro ni aru yoru no kisha
Various kinds of wisdom
As to how to sleep,
The night train.

手の筋も 淋しい時の 足しになり

Te no suji mo sabishii toki no tashi ni nari
The lines of palm also
Help,
When we are alone.

五月かな もの皆天を志さす

Gogatsu kana mono mina ten o kokorozasu
Ahi the month of May!
All things aim
At the sky.

母と出て 母と内緒の 氷水

Haha to dete haha to naisho no koorimizu
Going out with ma,
And drinking sweet iced water,
And keeping it between us.

打明けて 夜が夫婦に 新らしい

Uchiakete yoru ga fufu ni atarashii
Letting each other into the secret,
New is the night
For husband and wife.

ひぐらしは 物思えとて 鳴き止むや

Higurashi wa mono omoetote nakiyamuya
Ah, cicada !
Have you stopped singing
So as to make me sink into thought.

幸せを 思ふ僅かな 事一つ

Shiawase o omou wazukana koto hitotsu
A feeling of bliss
At such
A little thing.

プライス教授の英訳川柳を再讀して



英訳川柳を

再讀して 阿部佐保蘭

友人に頼まれプライス教授の "Senryu" Japanese Satirical Verses 第四版を貰求めた序でに再讀した処、小生が八年前にプライス教授にお送りした誤りのリストが、元のままで訂正されないことに気がついた。それは例えば春雨(Harusame)が依然として Shunū となつて居り、好浪(Korō) が Yoshiro 尚百(Tohyaku) が Tohyaku として発行されてゐる。かかる訂正箇所は氏の外に近生の氣のついた文でも十七を数える。これは明らかに発行者北星堂書店の怠慢としか考えられない。と云うのは八年前小生の送つた正誤表に対しプライス教授から折り返し御礼状を戴き、それを中で『間違いのリストを送つて下さいまして有難うございました。北星堂では月末この本を再び印刷する予定です。出版者は間違いをその時訂正されるでしょう』とあるからである。私が誤りを発見したのは再版で、この御礼状を戴いたのは第三版が印刷される直前だから、当然訂正されねばならぬのが、そのままになって第四版迄持ち越されている。これは甚だ遺憾なことでこの外にも訂正を希望したい箇所があれ

ば、全柳人がそれを読んでアドバイスする親切があつて欲しい。海外へどんどん紹介される川柳に就て余りにも無関心な嫌いがなきにしも非ずの感をうける。最近戴いた大木笛我君の書状の中にも『プライス先生は今の柳界で知る人ぞ知る程度なのは情けない次第で、雀先生も以前そのことを言つていましたが、昨夏長屋連の月次会が根津須賀町の迷草居で開かれた時、雀師から電話で、これからプライスさん同道で出席するから支度を頼むと申して来ました。』と云うのはプライスさんは清教徒なので肉類は駄目、野菜なので大忙ぎで迷草夫人が支度を致しました。その時鮎の形の牛乳を中に包んだ焼菓子を出したたら大変喜ばれたのでお土産とした事があります。長屋の会は句作後酒を飲むので話も滑らかとなつて、ジユースを召し上り乍ら皆のお喋りを聴いて居られました。酒なしで整然とお話を聴きたい處でした。私どもの「せんりゅ」は雀師からいつも貰つていますとのことでした。記録もなしの話しつ放しは今思つて惜しいことでした。印象は隠やかなうちに親しみ易く、気取りのない方でした……』とあり

故雀郎先生もこの点を嘆いて居られたといふが伺われる。このプライス教授の英訳川柳は講談社発行の谷脇素文画伯描くといろの「川柳浮世さまぐ」その他の著書から抜萃せられたものと思考されるのであるが、十年前の著書丈に現在読んでみるとプライス教授も云われるようにもう一つ何かもの足りぬものを感するのである。それで恐らくの十月頃に矢張り北星堂書店から新たな構想の下に "Japanese Life and Character in Senryu" を出版される事にならひ。どうぞ内容のものか、川柳家たんじょ。どうぞの内容のものか、川柳家の一人として今から待たれてならない。浮世絵の価値が最初外国で認められ、統一 국내でも改めて識者に見直され、珍重された例もある。川柳なども多分にその例に洩れないような感じをうけるのである。在日四十余年のプライス教授の著作に対し、和歌俳句に対し著書の少ない柳界に於いてその参考書その他に於いて柳人の蔭の候援を望むや切なるものがある。例えば路郎先生の「新川柳鑑賞」の如き所謂解説付のものこそ、外人は勿論一般人にも貴重なものである。この次の著作に間に合うようプライス教授には是非プレゼントしたいと考えている。川柳雑誌四百号記念号にはプライス教授が「前田雀郎自選三十五句」の名英訳や誌上を飾つて下さることと期待しているのであるがその前にプライス教授の Senryu の中から川柳雑誌関係の先輩柳友の句の一部をピックアップさせて戴き、拙文のラストを飾らせて戴くことにする。

偽りの世を鉄橋の下から見
At this world of lies,
From under a railway bridge.
Jiro

To the man who lives in a
dug-out under the iron bridge,
the Christian or Buddhist world
he looks out upon may well seem
what it is in part, a world of
hypocrisy and falsehood.

偽りの世を鐵橋の下から見
At this world of lies,
From under a railway bridge.
Jiro

Were so obedient!
Jiro
This senryu refers to women of
past ages, so much more willing
to please and be pleased than
modern women.

盜み心のないが乞食の自慢なり
It is the boast
Of the beggar,
That he has not a thieving
mind.
Stevenson says somewhere that
even the most depraved man has
his ethical code, some level below
which he will not sink.

波の寄るたびに鴉は少し飛び
Each time a wave breaks,
The raven
Gives a little jump. Nissa

This verse is senryū, if it is so, only because the raven is a humorous, ungainly bird. Otherwise it is a haiku, and a very good one at that.

くノナ島愚人の辞書にある通り

The Island of St. Helena,—

Just as it says

In stupid people's dictionaries.



羽田を発つて

—アメリカ通信—

足立春雄

第五信

ワシントンは合衆国の首都である事は御承知の通りで、議事堂のあるキャピトルの丘を中心には衆議院の州名を取つて名付られた放射線状の大通りと碁盤の目の様にきざまれた通りとから出来ており、諸所に緑の濃い広場がある。東西に走る通りは数字で、南北に走る通りはアルファベット順に呼ばれているので便利である。例えば自分の居るホテルは 19th i にあるし、日航の事務所は 19th k にあると云つた風である。いくら賀の目でも旅行者には判らぬのだから東京や大阪が一日や二日の滞在で判らぬのも

Tōgyō
Napoleon once said that the word "impossible" was not in his dictionary. Many years after, he was banished to St. Helena where he must have realised that the word "impossible" should have been in his own dictionary as it was in that of common, foolish people.

Just as it says

in his own dictionary as it was in that of common, foolish people.

肩車親爺の帽を子が被り

五健

ソシントンは合衆国の首都である事は御承知の通りで、議事堂のあるキャピトルの丘を中心には衆議院の州名を取つて名付られた放射線状の大通りと碁盤の目の様にきざまれた通りとから出来ており、諸所に緑の濃い広場がある。東西に走る通りは数字で、南北に走る通りはアルファベット順に呼ばれているので便利である。例えば自分の居るホテルは 19th i にあるし、日航の事務所は 19th k にあると云つた風である。いくら賀の目でも旅行者には判らぬのだから東京や大阪が一日や二日の滞在で判らぬのも

「ヴォイス・オブ・アメリカ (Voice of America) ド日本の皆様の票を乞い」議事

Riding on his shoulder,
The boy
Putts on his father's hat.

Goken

応援の手に彼女のコハベタ上
鮎美

With her compact. Ayumi

Everybody is intent on the race,
which is at its crisis. At this

This senryū is mostly sugar. It may be noted, however, that the little boy puts on his father's hat from necessity or convenience, not from choice or desire to appear comical. Also, the father is extremely uncomfortable.

With her compact. Ayumi
Everybody is intent on the race,
which is at its crisis. At this
moment a girl is powdering her nose.
X X X

堂はさすがに立派であり莊厳な感じでする。何處かの國の様に暴力がない丈でも清潔に感じられる。それがワシントンで此の前には無数の遊覧バスも止まっているが、それぞれ楽しく信頼感に溢れて説明を聞いているのだと思うと何か羨しい様だ。次の国会図書館にしても何處かの代議士連中に

は別の意味で羨しい限りでもあるうか。
型より内味の方をまねてくれと叫びたくなる。此の附近には各省や国立美術館、国立博物館等があり、此所の東洋美術館には日本の浮世絵の原画が本物の日本より多いと云うのだから規模の大きさも自ら想像がつく。

見物は大して出来なかつた。放送局の人達によれば外國旅行中の代議士は必ず寄つて放送せざると強要するそうであるが、何とか理由をつけてお断りするとの事である。中には用事もないのに要人と面会させろというのもあるそうで、ハーテーと列んじて放送せざると強要するそうだ。僕達は放送を取るのが目的である。僕達もそうならない様に注意しなければならないと思つ。

浮世絵も他国でもてており
ヘロシイゲをアメリカで見る阿呆

ヘロシイゲを勉学すべく渡米する
念头である。これはアメリカ建国の記念館で我が國の伊勢神宮か櫻原神宮とも云える程莊嚴さはないが、此のリンカーンの巨像がアメリカ民主主義のバッカボーンになっている事は事実である。「人民の為の人民の政治」これは不朽の名言である。「党的暴力による政治」の国では通らないかも知れないが、確かに終戦後日本人は軟体の指導者は案外そうでもないのに、引きず

られてゐる連中が悲壮感に酔つてゐるのか知らない。
次に之等の他にワシントン記念碑がある。石作りの塔としては世界最高のものとして有名で、此の塔を開んでアメリカの国旗が周囲に立てられており、此の上からはワシントン市街が一望に眺められるとの事である。通天閣の周囲に日の丸が立つてゐる事を想像して見たら何だか変な気がした。公共の建物では屢々国旗を見る事が出来るし、学会等には必ず立つてゐる。早く日本でも方々に国旗が立つ日が来れば良い

国旗さえ誇らしそうにひるがえり
その後に忘れられないのはリンカーン記念館である。これはアーリア建国の記念館で我が國の伊勢神宮か櫻原神宮とも云える程莊嚴さはないが、此のリンカーンの巨像がアメリカ民主主義のバッカボーンになっている事は事実である。「人民の為の人民の政治」これは不朽の名言である。「党的暴力による政治」の国では通らないかも知れないが、確かに終戦後日本人は軟体の指導者は案外そうでもないのに、引きず

生々として大きい。

大目玉むいてリンカーン睨んどり

此の目玉つぶれるまでの民主主義

途中日本の桜で名高いボトマック公園を通

って、池の畔の桜が満開となり朝海大使や

多くの日本人々が集まる姿を想像しなが

ら外交はかくあるべきであると痛感させら

れた。アーリントン記念橋と云う橋を渡る

が無名戦士の眠る国立墓地の入口としては

印象的な橋であった。

此所から遙かにベンタゴンや硫黄島記念碑も望む事が出来る。墓地は広大で、やはり階級によって墓石の大小があるのは少し奇異に感じられた。ダレス長官も此所に眠っているそうであるし、日本の二世も多く死んでまで大小のある面白さ

墓石もありアーリントン

これだけでワシントンの印象を残して、ニューヨークへの旅に出る。

第六信

ニユーヨーク

アメリカ大陸の大半の旅を終つてニューヨークに着いた。地下鉄の中で五十枚カ国語が話されていると云われるだけに国際的な都會である。道が違うので判らなかつた事であるがニューヨークは街のど真中にまで四万頃以上の世界の豪華船が横着けに出来る大きな港街である。市の中心はカクテルで名前が知られているマンハッタン区であり、周囲はハドソン河によつて囲まれて

おり、言わば一つの大きな中の島で、サー

クリーンと言ふ遊覧船に乗つて一周する事

も出来る。或る程御自慢の高層建築物が林立しているが、之はニューヨークの地盤が

岩石であるので良いのだそうである。従つて地下鉄も随分下を走つており乗換にエレベーターを使う所もある位である。但し

これは昔は各地下鉄が独立している私企業

であつたのを市が統合した結果である。

本当の地下鉄と云うエレベーター

だが街は余り美しいとは云えない。人と車の多いのと、ごみごみしている所は東京とそっくりである。少しだけ細くて上を見ると建物が高いけれど下の方を見ている限り車に乗つていても東京を走つてゐる様な気がする。

東京ではなかつたニグロが多すぎた

これが街は余り美しいとは云えない。人と車の多いのと、ごみごみしている所は東京とそっくりである。少しだけ細くて上を見ると建物が高いけれど下の方を見ている限り車に乗つていても東京を走つてゐる様な気がする。

だが街は余り美しいとは云えない。人と車の多いのと、ごみごみしている所は東京とそっくりである。少しだけ細くて上を見ると建物が高いけれど下の方を見ている限り車に乗つていても東京を走つてゐる様な気がする。

東京ではなかつたニグロが多すぎた

これが街は余り美しいとは云えない。人と車の多いのと、ごみごみしている所は東京とそっくりである。少しだけ細くて上を見ると建物が高いけれど下の方を見ている限り車に乗つていても東京を走つてゐる様な気がする。

ピア大学の近くなので男女の留学生が結構出入り、言わば一つの大きな中の島で、サークライムと言ふ遊覧船に乗つて一周する事も出来る。或る程御自慢の高層建築物が林立しているが、之はニューヨークの地盤が岩盤であるので良いのだそうである。従つて地下鉄も随分下を走つており乗換にエレベーターを使う所もある位である。但しこれは昔は各地下鉄が独立している私企業であつたのを市が統合した結果である。店が三軒ある。日本の旅行者に会いたいければ其へ行けば必ず会えると云う位で、押すな押すなの満員である。在留邦人も日本語が使えるので専ら利用していると云う事である。主人の話では日本の新興宗教の教祖様と云うのが二三人も大名旅行でお越しになつて、沢山の買物をなさつたらしい。勿論横文字の読めそうな方はなかつたのに何所かの大学の心理学の教授と論争して来たと滔々と話していたと言う事である。例の踊る宗教の教祖様もマンハッタンの広場からどこかで踊つて帰つて行ったそうである。さすが教祖様である。

先達で東京の田島金次郎さんから、手紙の中でこんなことを書いてきました。

又ニューヨークには日本人経営の土産物店が林立しているが、之はニューヨークとろの山かけ食わされる

店が三軒ある。日本の旅行者に会いたいければ其へ行けば必ず会えると云う位で、押すな押すなの満員である。在留邦人も日本語が使えるので専ら利用していると云う事である。主人の話では日本の新興宗教の教祖様と云うのが二三人も大名旅行でお越しになつて、沢山の買物をなさつたらしい。勿論横文字の読めそうな方はなかつたのに何所かの大学の心理学の教授と論争して来たと滔々と話していたと言う事である。例の踊る宗教の教祖様もマンハッタンの広場からどこかで踊つて帰つて行ったそうである。さすが教祖様である。

論争はパンツマイムで済して来世界人と並んだ丈の世界人

昔の川柳発生以来作者と云う作者は男性ばかりで、つまり男性から見たものばかりの

川柳ですが、現代殊にアメリカ的女性が思

い切つて、男性への抗議、遺恨百年の短刀を揮つてもらいたい、と私は期待するもの

であります。麻生藤乃夫人その一党は、もつとスペースを取つて、女性ならではと言え

ないという句が欲しいと思います。落語家の柳橋の弟子に笑橋という女性の落語家が

おります。女性の落語家は初めての初高座の宣言に曰く「女ならではの觀察を」と「大きなマクラ言葉で堂々スタートいたしました」。私は今後の笑橋女史の大いなる活躍を期待するものであります。以上は金さんの名セリフでございます。

ボストンは京都と姉妹都市と云われる大

に京都を思い出す様な静かな街で、例のハーバード大学やらマサアセッジ工業大学等

学問の街である。ニューヨークランドの呼

称があるが全くヨーロッパ風な古めかしい

建築物のある街で従つてニューヨークと異

つて、非常に落ち着いた親しみ易い街であ

る。専ら大学や美術館の見学に日を過し、一日を四十五哩離れたウースター研究所

の見学に使つた。ホルモンに関して世界的

の研究所であるが、非常に小じんまりした

アメリカ風でない研究所であった。中の施

設はさすがと思わしめるものも少なくなかつた。知的的資源として多くの日本の学

者が働いている。

飛・燕・往・來

★並木東田樓氏(ホノルル市)より

一書乃宛

投句用 柳 箋

一冊(五〇枚綴)三〇円
送料(一冊分)八円

川柳雑誌社特製

な。昔の僕の句に

ルンベンの車にSのイニシアル

これで結構ルンベンは楽しんでいるのだと思う。なんや、えらい理屈っぽなた。お母ちゃん、こんどは風呂は何回位はいった?

葭一行った時と、夜中と、朝と。

ア一あの風呂の写真は駄目やつたけど、鯉か金魚を浮かしたらしいよな……

葭一丁度庭の真中の東木みたいやな。岩風呂の方が温泉らしかったね。

ア一然し一遍行つたらまた行つてもいいと思うけど、行くより向うから来てくれんかと思つ(笑声)

葭一風呂を持つてね(笑声) ア一まあ勝浦位がええとこやねもうあれ以上遠いことは御免や。

葭一新宮から那智へ行く道の左側がよかつた。

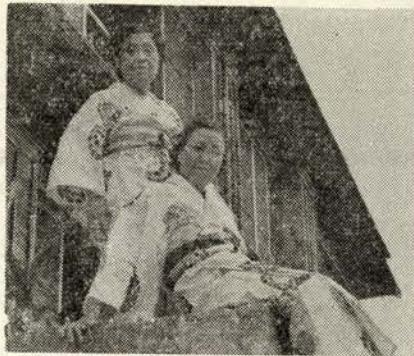
ア一勝浦では? 葦一廊下に蟹が這うてた位なもやね。(笑声) 翠青色の海がよかったです。

ア一朝起きて船が出たり入ったりするのがいい。

葭一それか乗れへんのや(笑声)

ア一まあ似たようなもんや、向うが動いてるか、こっちが動いてるかの違いやから。

葭一こちから見た方が全景が見えていいかも知れん。



貸浴衣に着ておひいだす乃女史と静子さん

若の崖下の海に親しむ

バイオリストのアート氏



う(笑声)
葭一勝浦でも何處でも名前はかまへん。
ア一喋らん同志の対談やからこの辺で勘忍してもらおうか。

浪白く岬の船のレースなれ
旅の夜あんなとこから月が出た
眠て喰べて治つて乗つて戻る母
那智の滝そこらに碁石落ちていず
観光客くらげの如く流れ来て
石段を仰ぎ見て観光引返えし
だんらんの父はタンヌを見に出かけ
湯煙の中でモテルのはせたり
譏嫌よく息子へボーズ作る父

アート
白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。
本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。
東京句会記念号 十一月一日発行。

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。
本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。
東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設
川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓担当
玉造文部発足 西田伸樂・清水担当
白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。
本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。
東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設
川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓担当
玉造文部発足 西田伸樂・清水担当
白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。
本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。
東京句会記念号 十一月一日発行。

ア一吾んでばかりいたじゃないか。そやから、わざわざ遠いところへ行かんでも、何處へ行つても同じことやね。僕らみたいな人間ばかりやつたら観光協会潰れてしま

磯の香に名残りを惜しむ雨戸閉め夜となれば人魚のなげく岩もある岩風呂へ廊下を蟹と歩く也内海が湖水と見える鮎の皿

貸浴衣舞踊好みの柄もそえ嫁の世話になつて干される肌襦袢海の碧さがトンネルにちよんぎられ崖下へ降りるアマチユアホトグランハイウエイ狭いながらも海に沿い伝説を車降りすに読むもとし

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設
川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓担当
玉造文部発足 西田伸樂・清水担当
白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。
本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。
東京句会記念号 十一月一日発行。

送。

本社事務所移転 大阪市天王寺区上汐町二丁目五一番地へ。

関西風水害慰問句会 十月五日道頓堀俱楽部で。

十五日道頓堀俱楽部で開催。

柳壇画報 柳誌企画の新機軸、

画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。

本社十周年記念東京句会 十月五日午後五時半から東京浅草雷門前並木俱楽部で開催。

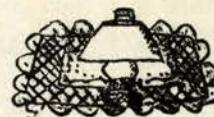
東京句会記念号 十一月一日発行。

日本名所名物川柳 二月号から
画報二頁を八月号から巻頭に新設

川柳バイロット欄(初心者指
導)九月号から新設 福田山雨樓

担当 玉造文部発足 西田伸樂・清水

白柳子の肝煎りで。八月。創立句会は九月十日。</



上から下まで

東野大八

私たちの碌な頭脳労働者は、理髪屋のサービスに対していろいろと注文の多いのをつねとする。たとえばあつい湯を頭の裏側からイヤナリじゃあーとかけられると亀の子のように首がすくむ。洗髪にしてもこのころはやりの、ビニール製の硬いフケ落しでただでさえ生地むき出しの頭の地肌をガリガリと薄薄にやられたのでは、あとで熱くなった中味のより戻すのに随分骨を折る。ハテ、脳といふ字は月へんだったか、とどうの判断がつかなかつたりする。

そこで、さる店では洗髪の小僧さんやワラカラーカーク、やワラカラーカークというので教育した。おかげでこの頃ではビニールの前カケを首につけながらその小僧さんやワラカラーカーク、やワラカラーカーク、というようになつた。常連で有難いのは何もゆきつけのみやだけではなさそうだ。

◇
頭を洗うといえば、洗う相手が

このときはど男女の差異を力学的に至極ハッキリと感得する時はない。佐藤弘人の御存知隨筆による

ところいう点についてこんなことが書いてある。「男でも女でも重いものを持ち運んだり、力業をするときは口を堅く結んで力の逃げないようにする。口をボカンとあけて力仕事をするバカはない。女は口を結んで力を入れることは男と同じだが、体部の下の口から氣が抜けるから力もぬける。随つて女は男より力が入らぬ」といふても理学博士らしい言い分である。「すりこぎのクギは女にちょうどよし」という古川柳がある。名古屋の新聞人である佐藤弘人は、この点についてこう解釈されたことである。女とは、かのとき、男にまつわりつくその力の強さに時にはおどろかされるのだが、これはその弘人説にピッタリである。すなはち男によつて下が

東

野
大
八

らだという。だから床屋の場合はそのムスメにしっかり洗つてもらひでればよろしい、どうせその場合、こちらの両手は遊んでるだから、とにかくモノは有効に使ひべきだ」とね。

◇
そのような話についてもう一つ。女房が幾度かに一度はシリをむけて「清勢」に応じない冷たいときがあるが、この点についても彼はいう。こういう非情勢は、大いに便秘してウラの口がつまっている場合が多い。女体の便秘はすぐそのお隣りの口を不快なものにする生理があるから、その点についてナニガシかの不満のあるご亭主は、そのよつてなずユエンをよく認識して、ウンと野菜を与えた。野菜は通じをよくするからね、とある。ナルホド裏口でツメいくのは木戸と将棋ぐらゐのものだ。

◇
昨年の伊勢湾台風やこのほどの頃ではビニールの前カケを首に当地の集中豪雨で、一番よくヤラれたのがニワトリだが、漢法医の大冢寺田文治郎博士（私の大陸時代の旧知）の書かれたものによると、本におぼれた生物の蘇生はカマドの下の灰が一等よろしいある。この灰は水湿を奪う。木におぼれたものに神妙あり。カマ

ども、いい年頃でこれに縁のないのをむかしは「カイ性なし」とわらわれた。こういえばゲスっぽくなるけれども、貝ほど尊いものはないのである。東洋の大古の貨幣価値はすべて貝にあった。その点をガクのある学者（モットモな話だ）漢字制限でもこの文字だけは大幅にその制限のワクをゆくめている。貴、財、貨、貯、買、売、費、貢、賃、賄、資、質、賓、賞などみんな財物やカネに縁がある。このつなぎ合せを分けてしまうと貧となり。貝を貰くところが母の貝であり、これの浅いのを賤しいという。貝とは何か、この処分の判断に賢明なる女性を貞女といふ。貝をボクすれば必ずは貞なり、と儀式にあるそつだ。ボクしそこねてよろめいたものこれすなはち不貞となる。もつとも彼女をして貞ならしむる責任はフティなる男性の側にあるのだが……。

◇
ドの灰を一斗あまりとりおぼれた人の頭より足に至らしめれば、体中の本七孔より立ちま出づとある本におちて二、三時間後の死んだニワトリを目とクチバシだけを出して灰に埋めたら生きかえったとも記してある。よく家の相続争いに「カマドの下の灰まで私のもの」というのが口説にあるが、どうやら、この語源の意味がついするところにあるのではなかろうか。ささやかなモノゴトの表現もむかしものとなるといい加減なものではなさそうだ。

◇
灰といえばこんなむかし話がある。若い男が殺された。どうやら痴情の果らしいのだがホシがつか

胃潰瘍を内服でおなおす

潰瘍の創面に直接働きてニッショニ肉芽を盛り新しい粘膜を新生させ且つ副作用は全然なく胃痛を迅速に和らげます。一回四錠ずつ一日三十六回使用致します。

エーザイ株式会社

メサファイリン錠

一〇〇錠 七〇〇円

短詩文学 秋の作品展

(第四回)

会場 大阪梅田阪神百貨店二階
 会期 11月24日(木)——29日(火)六日間
 作品 詩・短歌・俳句・川柳作家新揮毫作品
 頒価 (半折・横物・色紙・短冊陶器その他)
 売約に応じます。会場係に御申し出ください。

(作品搬入は十一月二十三日午後三時から会場で取り扱い致します。なお出品数、品名は十一月十日までに連盟事務局までお知らせ願います。軸は本表装のこと、色紙、短冊は色紙掛、短冊掛をご用意願います。

盟会社 連員 文学委誌 詩文教育雑誌
 短市柳 西阪大川
 催後主

第十三回 川柳大会 (十月二日) 会場 每日新聞大阪本社講堂
 第九回 短歌大会 (十月十六日) 会場 每日新聞大阪本社講堂
 第八回 俳句大会 (十月廿三日) 会場 朝日新聞大阪本社講堂

大阪市民文化祭行事 (短詩文学関係)

恒例の行事を左の通り開催いたします。詳細は各新聞社並びに各報道機関の予告及び連絡の案内等により承ります。

主催 大阪市・大阪市・詩文連盟委員会
 後援 朝日新聞
 日日新聞
 新聞連盟
 社社

めない。困った町方守力が思い余つて大岡越前守に相談した。ご存知の通りこの名奉行は話の首尾をきいて八十の婆さんを捕えた。案の定このお婆さんが犯人だった。さすがは大岡さまと感心しながらその目つきのほどをきいたらこの人、ナワ一筋を火に焼いてみせた。そして、見られよ、このナワは黒いナワの形で灰になつてゐる。八十の婆とて女に変りはない、と説明したという。このミスティーの真髓は、女は灰になるまで業の深い女体の因縁をもつてゐるというわけだ。アナおそろしきことのハかな。

◇
 女人ばかりを話のタネにするのも恐縮なので男の側にも公平にふださい。

形もないその現場に立つたとき一個の死体がそこに転っていた。二ワトリの丸焼きみたいに見事に火が通つて乾いた土偶を転がしたもの

うな具合だったが、仰向いたおなかの上に、ナマ焼のソーセージみたいのが一個所存なさそうにちかんで乗つていた。一見してそれはまぎれもなく男性の象徴である。フムと居合せた連中がうなり

ながらとも戦慄なる顔を誰ともなしに見合せたことだった。よほどモノがよくって灰になるまで火力がもたなかつたのだろうが、とにかく強珍な生物のシンの強さ

句が動くとか、動かぬとかいうことを、イヤというほど聞かされではいるが、大谷崎ほどの文豪がその一行の文章に「絶対に動かぬ文章」の連続となると、これはなかなかコトである。われわれの

雑文とは世界も舞台もちがうが、こんなワザはできっこないけど、なにかがよくて天氣になるまで火をもたなかつたのだろうが、とにかく強珍な生物のシンの強さ

光用のボスターにまで生きているが、これなども「絶対に動かぬ字句」であり、永遠の榮光にかがやく文字(もんじ)であろう。

賴山陽の「山紫水明」など、観光用のボスターにまで生きているが、これなども「絶対に動かぬ字句」であり、永遠の榮光にかがやく文字(もんじ)であろう。

「今日はよいお天氣で」というのから語が進む日本人の、これは儀礼の動かぬ「言葉」とでもいうのである。(不二田一三夫)

動かぬ字句を

★ ★ ★

★ ★ ★

よ

にヘキエキしたことを今もありあ

りとその物体の形状とともに私は

ことしばしばと聞かれ、ぼくな

どまったく赤面ものであつた。

「川柳塔」の大切があすに迫ま

ると、あわてて十句モノするぼく

などは例外として、わずか十七音

の文字に、動かぬ字句を追求する

ものであるこというまでもないが

のは当りまえのようにおもう。そ

う。ということになった。すると

一人が即座に確信をもつてこう答

えた。「そりや、口の中の舌だろ

う、彼女は死ぬまでこれを使いぬ

ているからね」

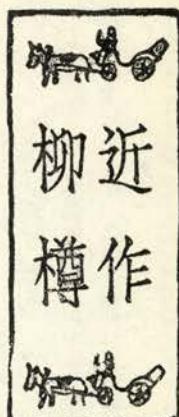
には今日使つてゐる字句で、し

かも明日へと「いのち」のつづく

ものであるこというまでもないが

これは日ごろの精進が強要され

よう。



麻生路郎選
北川春巢選

詩を解す女給は暗い過去を負い

熊本市

田口麦彦

いつからかここに喪服着たおんな

同

三等亭主が妻にすすめる里帰り

同

絵日記に書くためだつた拭き掃除

同

ハイライト喫うてもやはり小市民

岸和田市

ビニールの中でターンをする金魚

同

スポーツのよう台風予報

同

聴く

同

三等亭主が妻にすすめる里帰り

同

絵日記に書くためだつた拭き掃除

同

ハイライト喫うてもやはり小市民

同

ビニールの中でターンをする金魚

同

スポーツのよう台風予報

同

聴く

同

三等亭主が妻にすすめる里帰り

同

絵日記に書くためだつた拭き掃除

同

ハイライト喫うてもやはり小市民

同

ビニールの中でターンをする金魚

同

スポーツのよう台風予報

同

聴く

同

三等亭主が妻にすすめる里帰り

同

絵日記に書くためだつた拭き掃除

同

ハイライト喫うてもやはり小市民

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて

同

二百五十戒おほつかなしの一人ぞ

布施市

久米奈良子

同

彼岸への道急がずに技を練り

同

名園をほめて手入れを思いやり

同

親しさの度合いがわかる三人称

同

暗がりの席で右手を預けられ

同

京都天童寺にて

同

木屋の儲けうらやむ程の日照

同

里帰りも遠のき里に母はなし

同

お祭りの日取りがスリの、あり

同

東大寺戒壇院にて



気短かがどなつて暑さのせいにす
恋人がいるから見てる益踊り

伊丹市

同 小川静観堂

プロゾロゾロ街に男が湧いて夜
スタンドを消し良心をねじ伏せる

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

(19) 池田可宵

短大出大学ではと云い馴れて

同

同

河原みのる

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

子の宿題手伝う鉢巻板につき

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

僕んとこ何を何しても壁ばかり

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

二十円貼って子供のことばかり

貝塚市

護川 梢月

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

カーテンが風に押されて恋が見え

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

小遣いはみんな果物屋にとられ

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

平和への努力それみよ鳩がとび

大阪市

叶岡 史風

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

退き際を知らぬ男がよくしゃべり

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

金になるボスト成程金になり

和歌山県

木下 一休

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

お互いの歳はきくまい嫁き連れ

大源市

横田 放人

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

木柱の陰でたしなむハイボール

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

姉女房団扇で愛の風もくれ

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

退院のいの一番は恋と逢い

大源市

竹内花代子

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

猫だけが日向に寝てるのも残暑

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

三味線を夫婦で弾いている若さ

鳥取県

鈴木村諷子

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

あの頃の恋が入れ歯を洗つてゐる

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

ボーリングせねば動かぬになり

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

女房が浮かれりや浮かれる男なり

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

ダンジリより海山へと気が揃い

堺市

沢田 美喜

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

父の代筆淋しく引き受けける

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

青すだれ昼寝をカバーして貰い

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

一人では淋しかろうと他人の目

松江市

田中 妖人

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

大掃除妻は口先だけ動き

同

同

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

五万円の扶助料今はけなるがり

兵庫県

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

稼ぎ場へ乞食も自転車で通い

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

男みんな狼にされ夏の宵

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

先代の苦労と別なゴルフ焼け

京都市

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

七転びなりで八起きは子に任し

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

ズボン少しずらせ借りたモニー

竹原市

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

入口を半分あけて公休日

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

旺盛な生活力の紅の濃さ

大源市

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

横田 放人

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

髪結うて女おんなを意識する

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

会えばすぐ仲人が聞く夫婦仲

岡山県

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

扇風機とめさせて服む粉薬

福田 祥男

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

料理見学無料ジュースでもなき倉敷市

小倉美音子

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

レース編仕上げへ既に秋の風

同

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

サングラス有料道路突っ走り

大阪市

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

お渡りをテレビで見れる世

京都市

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

役得は紙幣をさらると換えるだけ

都倉 求女

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

レースはめた手がしきりの紙幣を出し

坂東 あき

(一〇) 読書・囲碁 (一一) 有
(一二) 昭和六年四月

(一) 河村 豊 (二) 星 塙 兄

(三) なし (四) 愛知県津島市永

月14日 (六) 名古屋市中区正木町
一丁目五一 (五) 明治32年1月

(五) 大正2年3月28日 (六) 仙

台市 (七) 建設業 (八) ②九七九

五 (九) 身のほどは五尺十三貫五
(一〇) 特になし (二) 有

(一一) 昭和六年

(二〇) 後藤 閑人

(二一) 後藤正二 (二二) 閑人 (三)

なし (四) 仙台市東八番丁一七〇

(五) 沢町一丁目五一 (五) 明治32年1月

14日 (六) 名古屋市中区正木町
一丁目五一 (五) 明治32年1月

(六) 閑人 (七) 印刷彫刻業 (八)

津島局三六九〇 (九) 御主人も大

事わが身も又大事 (一〇) 妻連れ
ての旅行・釣 (一一) 有 (一二)

大正十五年十二月仔細あつて俳句
より転向。

大正十五年十二月仔細あつて俳句
より転向。



医者に顔知られ療養長くなり		同
景品は女物でくるゴルフ	岡山県	吉田 俊和
経済が持てぬとテレビ料理見ず		同
片影へ右側左側もない暑さ		高橋 蟻
アパートでくらすと決して折れ	和泉市	同
良縁へ捨てるに惜しい芸を云い		中西兼治郎
嫌われることは承知で怠を押す	竹原市	同
ひたくるように結局もってあげ	羽曳野市	同
秀才の家系へ足らんのも混り	大阪府	高橋 婦人大臣妻の鼻息荒くなり
課長になつて		吉田 俊和
こせつかぬようにと思う盲判		同
ゴルフ場のケタの広さが美しい	兵庫県	恩給がもうつきました花バサミ
一人でも女は隅で湯を流し	遠山	全盛の過去には触れず鉄を振り
お薄が出ると聞いて若輩尻込みし	可住	アベックで金の要らない夕涼み
甘やかして呉れなと孫の父の文	芦屋市	繩帯の手を高々と満員車
香焚返しの葉書で暑中御見舞	里田一	大坂市
すくすくと特価すくめの子が育ち	八尾市	秋うれし誰かの病気なおす風
知った歌唄い尽して酔っぱらい	同	枚方市
子に勉強させてバチンコ屋へ出	笠岡市	テレビは聴くだけの女中部屋
ささやかな貯蓄銀行のカレンダー	伊丹柳瓢子	高橋 郷原まさ子
又プロレスかいな隣りのテレビ	吉田 博一	同
貯蓄をしてても愉快な綴方	忠三	中西兼治郎
オートメの下請けをして一家食べ	松本 忠三	同
人並みの暮らしがしたいお中元	同	高橋 婦人大臣妻の鼻息荒くなり
冷房の装置確かめ映画見る	藤村百合恵	吉田 俊和
女房のやりそうなことマネービル	内海 敬太	同
四十づら下げて府営へ申し込み	松高 秀峯	同
四十づら下げて府営へ申し込み	佐伯 九紫	同
オートメの下請けをして一家食べ	同	吉田 俊和
貯蓄をしてても愉快な綴方	同	同
オートメの下請けをして一家食べ	常岡 孝風	同

(22) 柴田午郎

(一) 柴田午郎 (二) 午郎 (三) なし (四) 島根県能義郡伯太町母里 (五) 明治39年4月28日 (六) 現住所に同じ (七) なし (八) 母里局六番 (九) 夕日は赤くともおもうこと一つ (一〇) なし (一一) 有 (一二) 昭和二年八月

(23) 川村好郎

(一) 川村好郎 (二) 好郎 (三) なし (四) 大阪府泉州北郡高石町北四六五 (五) 明治35年10月25日 (六) 大阪市 (七) 会社員 (八) 堀 (九) 五十やつと親のすべてがありがたく (一〇) 別に無し (一一) 有 (一二) 昭和十

An advertisement for Astroline G11. It features a white oval containing a mustache and a safety razor. The text "ヒゲそり後に…" (After shaving...) is at the top, followed by a list of ingredients: "美容衛生剤G11", "アラントイン", and "水溶性ラノリン", all enclosed in a bracket labeled "配合" (Combined). Below this is the word "男性" (Men) in large letters, with "アストリーライン" underneath it.

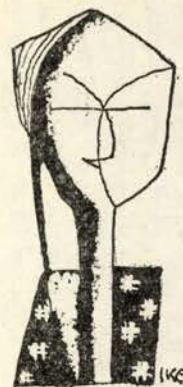


カモフラージュする新聞をまたひげ	岡山県	若柳花乃子
蟬取りの一団去った蟬しぐれ		
今更に帰化などわしには運かった		
州会は議員の増給から始め		
食欲が出たに花束持つてくる	玉野市	同
幸福の絶頂ダムにボーズ取る	同	同
釣銭をもらい忘れる程しゃべり	岡山県	同
はえ叩きほくろ叩いて叱られる	同	同
神棚の位置まで替えるホールームバー	石川県	同
ふられたを忘れるジャンに負けども	大阪市	同
海水着これが最後に母となる	大阪市	同
高野山にて	山田 蛙水	同
高野楓切り株一つ床に生け	同	同
嫁き連れひとつは親のせいにされ	羽曳野市	同
血圧が左うちわにもある悩み	大津市	同
黒髪の誇り婚期は逸しても	大津市	同
反抗の髪赤々と染めてくる	村田 淑滋	同
山彦に恋する人の名をよばせ	松江市	同
儲かっているのか社長愛想よし	鳥取市	同
機械化をにくみ日傭い細く生き	笠岡市	同
味噌汁に娘の味の日曜日	福岡市	同
横車だけが居眠りせぬ会議	大津市	同
どの窓もみな満員の汽車が着き	滋賀県	同
死に場所もあろうに親の行けぬ山	大阪市	同
ねこんで見れる花火に幸を知る	小松市	同
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ	笠岡市	同
外孫が来て家中をたからせる		森本黒天子
沈黙を愛するように娘はだまり		大阪市
夏瘦せをからかって見る汗の玉		橋本裕邦
山彦もひるね山林学校もひるね		岡崎雪美
押売りのように信仰すすめに来		松江市
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		大津市
うやむやに葬る汚職足を出し		西本保夫
忍術のように女房にへそくられ		五所川原市
愛人が半分切れている写真		盛
頼りない男と知つて貢ぐ恋		竜藏
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		宮崎市
豪商の手となり足となる政治		高津紡毛
赤旗とアジビラに工場小さくなり		吉田 隆史
貴い風呂話が好きできらわれる		大塚喜代子
退院が医師の指示越す祝酒		三井 酔夢
帰郷して土産話は標準語		大須賀平々
御祭りが見えず人波見て帰り		野口卯之助
本日休業街を他人の眼で眺め		赤旗
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		森本黒天子
病む妻へ体温計は低く云い		河内長野市
お前に似様に似ても子の音痴		心斎橋大丸北の辻東へ
夫々の帶の柄にも似た心		御門
社長学ゴルフの手ほどき第一課		TEL 27 6684
失恋をいやすビールの気が抜けず		御集会には階上御利用下さい
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て帰り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て帰り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て帰り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で記びる嫁を連れ		
外孫が来て家中をたからせる		
沈黙を愛するように娘はだまり		
夏瘦せをからかって見る汗の玉		
山彦もひるね山林学校もひるね		
押売りのように信仰すすめに来		
肩書へ贈る拍手を聞きわけるね		
うやむやに葬る汚職足を出し		
忍術のように女房にへそくられ		
愛人が半分切れている写真		
頼りない男と知つて貢ぐ恋		
和服着を貰めれば洋装で遊びに出		
豪商の手となり足となる政治		
赤旗とアジビラに工場小さくなり		
貴い風呂話が好きできらわれる		
退院が医師の指示越す祝酒		
帰郷して土産話は標準語		
御祭りが見えず人波見て限り		
本日休業街を他人の眼で眺め		
陽焼けしたことも嬉ぶ病後なり		
病む妻へ体温計は低く云い		
お前に似様に似ても子の音痴		
夫々の帶の柄にも似た心		
社長学ゴルフの手ほどき第一課		
失恋をいやすビールの気が抜けず		
同情をあふるマスクミにも困り		
死に場所もあろうに親の行けぬ山		
ねこんで見れる花火に幸を知る		
御無沙汰を笑顔で		

句評リレー

岡
山
市

武部香林



古利の彦原償去思と想い

八

「ふと思い」で実感の句として原
価値が生きて います。ユーモア

香林一烏鵲氏の云也

すゝむ一昔さんの云われたこと
でつきていると思う。出来上つて
了え巴色々と考えられるが古稀に

（というのではない）ところで、初めす、む氏は「顔」を生すぎると

遂げた老人に対する、ナマの感情と「原価償却」という非情の藝術とを結んでの着想は面白い。

「ふと想ひ」は誰でも一度使
って見たがる、常套語であるが、
とかく不成功の率が多い。然しこ
の句に於いては「ふと思ひ」によ
つて、エーモアが生れたのであつ
てまず成功だと思う。

なるほどそうもあろう。
奇抜な着想には、選者も引つか
かって、選抜しそうだ。

然しただその着想の奇抜なと云うだけで、人を長く引きつけておけるだろうか。殊に下五の表現が矢張り陳腐そのもので、この句を救われないもの、に、して仕舞つてゐる。

すゝむ—古稀と原価償却と云う
取り合せの奇抜を狙つたのならた

なる。作者はこの二つの極端な言葉を撰述するには相当の用意をもつてしたことだろう。だがその言葉を結合させるための努力が足りなかつた。セメダインの代りに間に合せの御飯つぶでひつつけた安易性。鳥雀氏は下五、す、む氏は顎性。にひつかかつた所以である。だが案外作者の狙いはそのような手を抜いたと見えるところに川柳のもつユーモアを漂わしたとも考えら

「長く引きつける」いわゆる深味という程のものはない。人間的情味もみられない表現の冷酷さはこの句を読むものの様に感じる所であるが、多かれ少なかれ、穿ちとか皮肉とか川柳のもつ冷たさはそれを超越して可笑味を誘発させ又心からの微笑も湧かしめる。

下五は今更論を俟つ必要のない程、よく批判の対照とされたものであり、自分としても選評の上で説いて来たが、この句の両極端をつなぐには適当なセメダインの役割ではある。ただセメダインの圖化しかけているに難点が残る。

対して原価償却のことが浮んだその連想が此の句の面白さで、あれこれ考えてもって来たものではない處にこの句のよさがあり「ふとぞ思ひ」に余地はあるとしても、古稀、原価償却と云う固い言葉で軽いユーモアを出しておりこのままではいいのではないかと思います。

亞鉋——古稀の顔——こころは原価償却。原価償却——こころは古稀の顔。なんのことはない。これではトンチ教室ではないか。す、む氏のいう如く、ふと思いついた連想だと、このようなトンチだけのこ

めす、む氏は「顔」を生すぎると評し、鳥雀氏は「陳腐そのものでこの句を救われないものにしていい」と非難した。私は間に合せの御飯つぶにし、香林氏は「二回目では「セメダインが風化しかけている」と難点を示した。結局二つの異なる概念の言葉を川柳にする方法で研究の余地が残されたということになるのである。それでは如何なる方法で川柳にするか、となると私は諸氏ほど実作者ではないから、具体的に云わずに、セメダインを要望したところが、鳥雀氏は下五を訂正して、八古稀の顔原価借却を思う▽とされた。これ

にけりではなかろうか。何しろ天照大神が出る時代だから。要是セメダインの風化程度にある。

田中烏雀
河相す、む

すゝむ—古稀と原仙償却と云う
取り合せの奇抜を狙ったのならた
抜いたと見えるところに川柳のま
つユーモアを漂わしたとも考えら

(担当・真鍋一瓢)

る。ワグナー作、歌劇「ダンホイザー」の莊厳なるメロディに乗つて幕が左右にひらかれ、そこには踏郎主幹の半生を物語る「川柳雑誌」の創刊号から四百号までが飾られてあり、正面中央の吉田さよし曲伯えがく、初代川柳翁の掛

い句であります」と述べられ、門下生一同精準を誓い「川端雑誌」発展の決意をしめされた大阪市長・大阪府知事から祝辞をいただき、ま



ついで中島生太
庵副主幹が、挨拶
された。「創刊号
あたりを拝見致し
ますと、文字通り
感概無量そのもの
でありまして、例へ
ば、第一回の草
集句は「仲人」の
選を井上劍花坊氏
「花輪」の選を西
本木府氏、その本
府氏の選で天の匂
に

た各方面からも祝電があり、いよいよ大会のファンイキが盛り上がりはじめてくる。

講演「毎日の言葉」と題した、学芸大学教授前田勇先生の話は、そのまま活字にしてひろく全国の読者の方にも読んでいただきたいほどの圧巻であった。

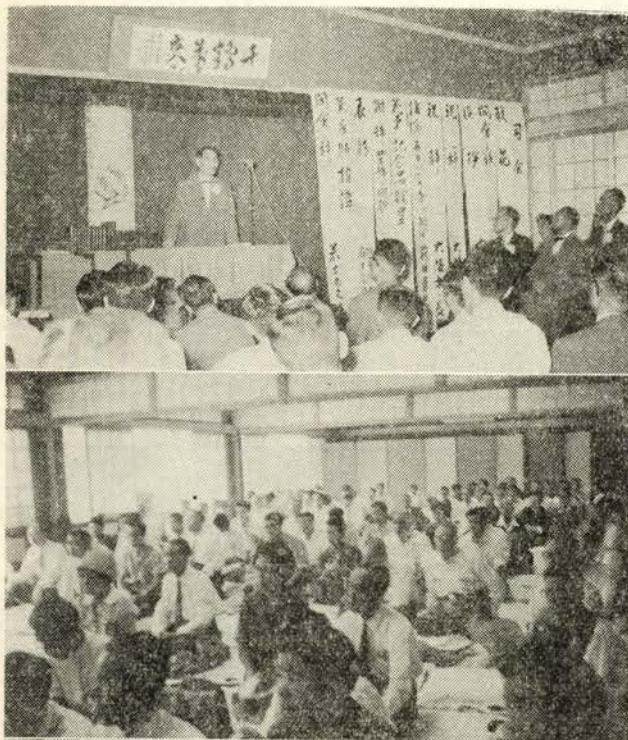
文字の四十分間であった。会場前方の右端に選者諸先生の席があつたが、いずれもこの講演を熱心に聴いておられた一事をもつてしても、いかに有益な話であったことか。

プログラムは「花束と記念品贈呈」とある。ここで不朽洞会副理事長若本多久氏から路郎主幹に記念品が贈呈され、花束の香りも美しいワン・カットである。

路郎主幹は「四百号を回顧して」の顛のもとに謝辞をのべられた。

お手気な声で「私の時間が二十

分よりない、二十分間では創刊号から三十年の回顧談はムリである」と。それでも紙不足の戦時中の苦心談や、葭乃女史と共に行く川柳行路のけわしかったこと、川柳を世界へひろめる熱意等、主幹の情熱はまだまだ火と燃え、その意気は壮者をしのぐハツラツたるものがあり、川柳万歳を叫ばずにはおられない盤石の決意をここでも表明されたのである。



前田男先生の講演（光輪氏撮影）

披講に聞き入る人々（すゝむ氏撮影）

に聞き入る人々（すゝむ氏撮影）

古事記傳



競う名吟・培う柳人

兼題「發展」 岸本水府選

兼題「思い出」 桜元紋太選

思い出の手記をマスクミニといい
思い出の路次をわざわざ来て曲り
思い出の多い車窓に旅つづく
あの時は愉快集まる度びに酒
思い出の一人は名士になつて居り
思い出の曲にバシコ屋で出合い
思い出と拾う貝殻多すぎる
思い出になろうと嫁く娘旅につれ
思い出のベンチ子供ら覚えてる
思い出へすぐなく舗装された道
思い出の写真優越感に満ち
思い出を別に挨拶する二人
思い出やなんてモンベをまだしまい
思い出ばなしみんな美人ばかりなり
ピンポンをただ思い出に貰つとき
切り抜きに思い出がある埃吹く
思い出へ顔が出て来て邪魔をする
お悔みについ思い出がある長くなり
思い出へ女は月日まで覚え
思い出があるガリ版のことが銷び
静養続く思い出をおしのけて

兼題「飲み仲間」 堀口塊人選

附け馬を連れて来たものと思ひ出や灰色のことも思ひ出ともなれば古方淡舟
思ひ出と処分をさせぬ長火鉢圭井堂
汚れたおれの思ひ出抱いて女死ぬ清生
町となり市となり思ひ出も薄れ没食子
思ひ出は阿呆ばかり毎の酒満潮
思ひ出の土地へ追われる足が向き薔薇風
思ひ出をこれから作る二人よしまき子
旅の思ひ出うまかつたもらい木一円
思ひ出はからだを張つたことばかり天
思ひ出へ互いに若い声がでる史風
思ひ出を拂聴記者の若いこと紋太
兼題「飲み仲間」堀口塊人選
飲み仲間オランが点けば気が捕り飛鳥
うまいものや見付けて来たと飲み仲間黙平
飲み仲間話の解る妻を持ち満潮
悪友にされてしまつた飲み仲間ひろし
飲み仲間今日はお前の顔で飲み実男
飲み仲間だけが残つた通夜の席愛論
二級酒で満足してゐる飲み仲間笛生
飲み仲間酒があるから酒を飲み路也
お互いの女房も知らず飲み仲間三司
ぐでんぐでんへいるかとでんでん来る美喜子
句会からうずうずしてゐる飲み仲間朝太
ライバルと意識しながら飲み仲間田舎
常連がよくも揃うてバーゲンける梅志
重役になれそうもない飲み仲間茶仏
飲み仲間いつもの席をあいて待ち満秋
飲む金は融通がつく飲み仲間梅里
政治観いつしょビールがまた甘し
マーさんと云えば通じる飲み仲間

初恋の話がながい 飲み仲間 峰子
飲み仲間一つ覚えの唄を聞き 入仙
靈前に酒を供えて 飲み仲間 八郎
着任の課長は昔の 飲み仲間 ピ女
おしほりへ今日も仲間の顔揃え 流宗
つけのきくとへ回った飲み仲間 紫香
真ともには名前をいわぬ飲み仲間 眉木
飲み仲間女房も少しいける 口 太路
いつまでも戦友という飲み仲間 和友
名付親任しておけと飲み仲間 凡子
飲み仲間女の要らぬ顔ばかり 竹莊
全快へ先すとんくる飲み仲間 柳宏子
飲み仲間お通夜へ済まなさうに来る 妖人
こう音痴ばかり集めた飲み仲間 保夫
飲み仲間みやげの刀派手に持ち 光輪
来なければうちから行く飲み仲間 旅風
飲み仲間肩たかれて乗り換える 梨花
何のかとの云つては捕う飲み仲間 すゝむ
顔のきく一人に皆んなまかしきと
二次会へ眼で誘われる飲み仲間 湖山
奥さんを恐わい同志のはしご酒 初甫
痛でないことを祝えと飲み仲間 豆秋
血压をいましめ合うて飲み仲間 圭井堂
飲み仲間酔うて見舞いに來てくれる 岐艸
妻君の電話で帰る飲み仲間 史風
終電ではばたり会うた飲み仲間 紅月
飲み仲間妻に言わすところでなし 晃里
肝臓で入院してゐる飲み仲間 粉淵
言訳はえがしてやる飲み仲間 知恵
お互に弱くなつたと飲み仲間 九紫
残業の一人を待つた飲み仲間 寿栄
定量をもう気にしあう齡になり 晚穂
肝ぞうの話をそらす飲み仲間 久米雄
モテたのが払つてくれる飲み仲間 そうる
飲み仲間別れからを電話する 菊風

二人来てまた一人来る飲み仲間
飲みな帰してから飲み仲間 潮花
恩給がどちらもついてる飲み仲間
父兄こかだけで遁じる飲み仲間
飲み仲間一人が十票ると決め
飲む方に話をする飲み仲間 修
飲み仲間飲めなくなつても飲み仲間
病床へ菓子持つてくる飲み仲間
飲み仲間安うてうまいとこがある
デカシショの頃から冰い飲み仲間
飲み仲間へ菓子持つてくる飲み仲間
飲み仲間安うてうまいとこがある
ビショスのことは知らない飲み仲間
阿呆なと言つて終もだ飲み仲間
飲み仲間孫一人出来二人出来
その方の義理には固い飲み仲間
タクシトを拾つてくれる飲み仲間
飲み仲間参考人として呼ばれ 康佑
一方はいつも聞手で飲み仲間
程々の酔が自慢の飲み仲間
飲み仲間誰が誘うたわけでなし
人 人
台どこの勝手知つたる飲み仲間 政俊
飲み仲間名刺をもろたこともなく
手のひらへ金を集める飲み仲間 一三夫
君はもうやめとけと云う飲み仲間 塙人
政界の巨人と言われる金集め 千加坊

巨人にも急所があつた向脛
石段をのばる巨人の荒い息言也
巨人軍負ける度びごと人気が出
人形の中に坐って巨人めく
へべれけへ女房巨人のように立ち
大ものも家では孫の馬にされ
大仏へ銅貨小さい音を立て
インタビューカー人は汗をかきあす
心ブラに巨人が歩く釜御飯
敗けつぶりよいとは巨人びきなり
巨人フト俺は阿呆じやなからうか
正月の雑誌へ巨人また撮られ
巨人いま両手をついてかえす恩
興亡の歴史巨人の眠る墓
角界の巨人で余り強くなし
小さい妻巨人の夫によく仕え
巨人とはやされ禪かつきで終り
何食うているかと巨人又聞かれ
巨人とも言われ山師とも言われ
巨人にもやっぱり恐い妻があり
闇取りが立てば天井の低い宿
巨人のような子に囲まれて母の幸
ウインキー巨人の腕を持て余し
泣くときの巨人のなまな掌にあまり
一とつまみ巨人土俵へ塩をまき
巨人にも小さな父と母があり
大文字巨人の悪戯にも似たり
巨人に生まれサンドウイッチマンに生き
巨人待つ日本の政治淋しいな
火を盛む役目を巨人引き受ける
気の弱い巨人に対し京言葉
演壇の巨人女のような声
腕力に勝って巨人のふと淋し
闇取を止めた巨人の勤め口
姉さんは巨人弟はタイガース
東西の巨人は空で駆けくらべ
圭堂井和三郎
花奈奈江
鶴
木原
和田
貴山
狂二
紡毛
梅里
清生
圭本
左久良
清子
朱紅
好郎
愛鳩
孝國
梵鐘
吉田
久米雄
美穂子
葉光
左久良
陽子
一三夫

ああ哀れ亭主が蚕に見える日
ドアマンとなつて巨人は侮られ
一世紀たてば真価のわかる人
京の屋根われは霊山観世音
業界の巨人小つちやな名刺入れ
十六円持つて巨人が風呂へ行き
アカセナリーのよくな巨人の恋女房
十三文半の男が媚を売り
かかる世に童話の巨人旗を振る
柔道をやると巨人すぐ聞かれ
学生の巨人落第かと聞かれ
陣笠を巨人と累めひと素朴
欠点もあるさ弱点もあるが巨人
生きているうちの巨人に気がつかず
お相撲さんと婚約をして見直され
言葉少く巨人運命に逆らわず
五尺七寸の我が子の反抗もあまし
猛犬の散歩に巨人雇われる
巨人の無口は妻を疲れさせ
失恋の巨人テレビのコメデアン
母からは巨人もあの子がと呼ばれる
巨人また宿の浴衣を笑われる
名優の演技舞台が狭く見え
銀行に巨人のような大金庫
相撲から巨人の卵買いくる
反則に巨人へ義憤空手打ち
堂々としていて卦長とまわがわれ
福寿草のこと妻が控えている巨人
市電来ず夕陽のビルを巨人と見
木虫は巨人の靴を引きずらせ
よく肥えた夫婦二人で四十貫
ジャイアンツ負けた所で劇に替え
巨人また落第生と間違われ
枯草のような胸毛で巨人病み富
明人会の中で小さいのが幹事
巨人 政俊 静馬 治史 木客
和風 旅人 清人 春巣 古方
峰舟 竹莊 生々庵 本
醉舛 実男 一瓢 宏子 本
凡九郎 萩介 一瓢 北人

朝潮の弱氣が好きで女なり 新子
兼題「よろこび」 中島生々庵選
天 地

よろこびの足で魚屋へ寄つてくる 柳 雪
逆境にあるよろこびはつづましく 月 都 良子
よろこびは和服の裾をとりみだし 良子
よろこびを温めておく日記とす 峰子
よろこびの酒へ行儀を許し合い 入仙
悲しみもよろこびも覗ききたがり 竹莊
手はなしでよろこぶ妻をあぶながり 蟻朗
よろこばせておいて次は寄付を取り 康佑
優勝のよろこび汗を友が拭き 光郎
よろこびの涙を孫に笑われる 柳志
よろこんで呉れと写真ひざまき 柳志
風雪に耐えよろこびの座に涙 光郎
よろこびの口上籠の飼もはね 左久良
院長もニコニコ今日は退院日 万楽
よろこびを鏡の中でうなずかせ 麦太樓
よろめいて来るよろこびをひたかくし 久米雄
よろこびを祖母顔中の皺に見せ 実男
胎動へよろこびの手をそつと觸れ きさ子
つましきよろこび親子の小さい小さい飼 久米雄
折詰を配つて喜びかくさない 雄 声
男の子生まれたを連ちゃんまで話し 桑 客
よろこびが顯微鏡へしがみつき 夢 虹
よろこびの言葉が長いお燭番 一三夫
喜んでいます涙の電話口 小松園
生還のよろこび人目はばからず 左久良
単純なよろこびよろこぶのもうれし 古 方
手放して喜びきれぬ船となり 葉
よろこびを素直に見せて馬鹿にされ 修
喜びの涙もやつぱり塩っぽい 凡九郎
よろこんで呉れると思う手紙書く 弘平

出張の宿によろこび掛けてくる
合格を知つて犬の走り寄る 九呂平
よろこびを家へ伝える呼び電話 小夜子
よろこびへノックをせすに驚かせ 薄風
およろこび申上げときかけで嫉妬 東天紅
かまきりのよろこぶ顔が怖ろしい とし燐
下手な字でよろこびの墨をすり 飛鳥
よろこびへうれし涙も添えてよ 梵鐘
泣き事を言ひに来たのによろこばれ 晚穂
よろこびを素直に夫昇給し 紡毛
よろこびの極みの果てのすり泣き 晃
丸齧に結うて夫によろこばれ 岬艸
よろこびへ七十の腰びんと伸び 満潮
よろこびをカナで済ませて筆不精 風味
よろこびへ少し気になるナフタリン
よろこびが寄せ書きされた便り来る 富明
よろこびへ躰くり足して顔を見せ 没食子
スカ喜びさせて北浜暮れかかる 恒明
よろこびの中へ祝電束で着き 白溪子
万才をも一度お願いするカメラ 人
よろこびの色はおみくじ吉らしく 醉舛
二つちまでよろこぶ顔になつてくる 地
天 美由起
よろこびを一人になつてかみしめる 花宵
人 美恵子
よろこびの色はおみくじ吉らしく 醉舛
花宵 美由起
緑側の母はカメラへ座を正し 清子
カメラ一ぱいに首相の低姿勢 満潮
お師匠さんの色氣へカノン向けられる 满潮
作品は又スードばかりのカノンなり 良子
上等のカメラストードを撮るカノン 兼造
報道のカメラ必死と抱え込み 新子
うつかりと立つてカノンの邪魔になり 多久志

ぶら提げて歩くカマラを借りに来る
千円のカメラに父も並ばされ
青い眼のカメラに京の舞妓いる
向けられたカメラへ衿をかき合わせ
新婚旅行カメラはあなた任せなり
秋を撮るカメラは柿の枝も入れ
撮つたらか撮つらうかと子のカメラ
雨に来てカメラは邪魔な物になり
旅先のカノナ女中もわり込ませ
頼りないババのカメラへ並ばれ
演壇はカメラを意識したボーズ
ビンボケは月賦のせいでのカメラ
妻が撮るカメラは犬がよく写り
鉄骨のあんな処にカメラマン 淡舟
塔を撮るカメラ少しずつ下り
カメラ熱いまがさかりの顔で携け
笑わせて置いて晴着の母を写り
質屋から出て来たカメラとは見えず
黙祷の中靴音のカメラ班 清生
ハネムーンのカマラだんだん疲れて米
カメラでもあればと思う美しさ 南宗
本当の年齢をカメラに見つめられ 梨花
特種を撮つてカメラはあとも見はず 牧人
カメラ 地 天

席題「横丁」 本田溪花坊選

横丁へ来る聞き込みは籠をさげ
横丁をまがつて空菓見うしない 味 平
横丁は名物街で甘辛屋 没食子 梅志
横丁にひっそり住んで溜めている 潮花
横丁に又ふえて行く魂のれん 操子
横町で前売券を待つ長さ いさむ
横丁が区劃整理で陽が当たり 潮花
横丁のここにも秋の益踊り 横花
横丁にひつそり無形文化財 政信
横丁の恋を見ていたビルの窓 峰子
横丁の店も株式会社なり 醉外
横丁にある駅前と言つホテル 柳志
横丁で不況も知らず駄菓子売る いさむ
横丁から来た豆腐屋を逃がし 太路
紅提灯ゆれて横丁のセット出来 梨花
税金のことと横丁もめづけ 六竜子
お渡りの供 横丁へ勢揃い 言也
コッポリで横丁のぞく美しさ 光輪
土地かんがようて横丁までおはえ 小石
伸たがいした横町を振り向かず 梅志
小説になって横丁名が知られ 竹莊
質草の時計横丁からはずし 久米雄
煙に巻いといて横丁へ戻つて来 一瓢
プラカード横丁へ来て風を入れ 梅里
通らしく横丁の横丁曳き回し 生薑
放歌放尿横丁の月が搖れ 生薑
人 人
横町へはいって略図またひろげ 文秋
地 天
横丁の夜の原色が氣を誘い 一円
旅先の横丁へ来たコレクション 万楽
席題「お世辞」 三条東洋樹選

下役がみな手料理をほめてくれ
人前で尻こそばゆい世辞に触れ
お世辞さき流し左遷の荷をまどめ
むつりとお世辞ぎらな模範工
世辞一つ言わぬ正直買ってやり
世辞言うにしても山本富士子とは
お世辞言う別の心を持ち合わせ
冷蔵庫から何か出るいいお世辞
父の手で世辞の言えない娘に育ち
世辞を背にきて帶上けきゅうとしめ
世辞一つ言えぬ気性を高く買う
三つ指でお世辞を言って茶も出さず
お辞儀したお世辞足から下へ行き
お世辞にもうまいと言えぬ味をかむ
人違いのお世辞カラクリ引いたよう
寝不足の椅子でお世辞を聞きとがめ
定年へ他人の世辞へきからわす
貧乏になれてお世辞がうまくなり
税務署のここはお世辞も通じかね
失意の日世辞にもすがりたい心
世辞いらぬ紳士かたまる慰安会
自家用に乗せて貰って帰る世辞
駄菓子屋のお世辞は母がついている
低気圧お世辞と言つて疳にふれ
お世辞言う黄色き肌の日本人
呉服屋のお世辞が過ぎるなと思ひ
お世辞真に受けて髪の毛染め始め
世辞言つて帰つた記者のまとい記事
お世辞言う自分が厭になる落目
借りに米たドキリ必死に世辞を言う
地天人

席題一カメラ

伊志田孝三郎選

席題「横丁」

本田溪花坊選

席題「お世辞」 三条東洋

三条東洋樹選

お世辞言う自分

九

なる落日
曲鉢

芸術と言う程カメラになり始め
縁側の母はカメラへ座を正し 清子
カメラ一ぱいに首相の低姿勢 満潮
お師匠さんの色気へカノン向けられる
作品は又スースードばかりのカノンなり
上等のカメラスースードを撮るカメラ 晃
報道のカメラ必死と抱え込み 兼・造
うつかりと立つてカノンの邪魔になり
新・子

横丁に浪速情緒が生きていた紅月
横丁に住んで通りを支配する圭井堂
横丁で大きく飛んでいる番地 北一人
横丁のオッサンでよい影の人 客遊子
横丁のそこから荷風笛で来そう 新子
横丁にこんなホテルがある都會 一三夫
横丁で名もない寿司の味に触れ 笛生
横丁へ曲がり口実考える 小松園

横丁の夜の原色が氣を誘い一円
天
旅先の横丁へ来たコレクション万葉樂
席題「お世辞」
三条東洋樹選

お世辞真に受けて髪の毛染め始め 夢 虹
世辞言つて帰つた記者のきつい記事 地
お世辞言う自分が厭になる落目 亞 鈍
借りに米たドモリ 必死に世辞を言う 東洋樹
（庸佑清記）

金泥集

選乃葭生

浪一つあだには打たぬ玉津島
(タル初) 御姿にはぢて女浪はよりつかず
玉津島手前勝手の浪がうち
(万安元) しら浪もあたりへよらぬ御姿
(タル三七) 船も帆も色紙に覆む和歌の浦
(万安元) 垂れんとは似合わぬよな御
神詠

課題「小 錢」

心がけよくアルミ貨も持ちあるき
アルミ貨を重掌鍊でつまみ上げ
赤電話小銭はしさにガムを買ひ
子を連れて行くデパートへ小銭持ち
旅の子へ持たせる小銭かき集め
店先きの金庫は小錢だけ納め
小錢だけ持つて夜店を散歩する
ズボン吊れば小錢ダラマラコ
一円を捨うて小判の端くれや
衣がえ小錢ざくざく出るボケツ
御利やくへ小錢を投げて鈴も振り
小錢入振つて泣く児に聞かす音

同 心

阿茶 陽は西に小錢と帰る猿まわし
同 百円も小錢のうちと世は交わり
同 商いも子供相手の 小錢なり
同 昔にはこんな小錢で家も建ち 万女
同 汽車の窓小錢の財布別に持ち
同 小錢もう狙わぬ程に大人びて 清子
同 うつ伏した拍子の小錢派手な音
同 つり錢はさっさと貯金箱へ入れ
同 献金の小錢わざわざくして来
同 泣き事を云つてゐる方が小錢ため
同 ヘソクリの小錢が株買う額になり
同 小錢とは思えず祖母の貯めた額
同 老人の小錢が命取りとなり シテ
同 小錢では買えずランジスターラジオ欲し

柳 通姫タラシ だつたら、あまりの美
しさに、白楽天は腰を抜かし
ただろうと、おもしろい句想
である。

丸齧タラシ になって聊か淋しが
櫛巻は言い切らずして立
つて行く 二柳子 天民子

日本髪悠然として背が低
し

不二田一三夫

課題「小 錢」

玉津島手前勝手の浪がうち
(タル初) しら浪もあたりへよらぬ御姿
(タル三七) 船も帆も色紙に覆む和歌の浦
(万安元) 垂れんとは似合わぬよな御
神詠

心

衣通姫タラシ だつたら、あまりの美
しさに、白楽天は腰を抜かし
ただろうと、おもしろい句想
である。

玉津島手前勝手の浪がうち
(タル初) しら浪もあたりへよらぬ御姿
(タル三七) 船も帆も色紙に覆む和歌の浦
(万安元) 垂れんとは似合わぬよな御
神詠

心

玉津島手前勝手の浪がうち
(タル初) しら浪もあたりへよらぬ御姿
(タル三七) 船も帆も色紙に覆む和歌の浦
(万安元) 垂れんとは似合わぬよな御
神詠

右左詠歌で見ても御老年
(リ 四七) と歌の文句を、玉津島の歌に
対しては、御姿にはぢて女浪はよりつか
ず

浪一つあだには打たぬ玉津島
(タル初) は、海路わが國へ向つて来た
玉津島だと樂天は腰がぬけ
(タル一四八)

という句がある。唐の白楽天
は、海路わが國へ向つて来た
が、和歌の神、住吉明神が現
われて追いかけた。それが
衣通姫タラシ だつたら、あまりの美
しさに、白楽天は腰を抜かし
ただろうと、おもしろい句想
である。

遠くから両手をあてる高
島田 七厘坊 いみ女
此の親にして桃割の値が
定まり

丸齧タラシ になって聊か淋しが
櫛巻は言い切らずして立
つて行く 二柳子 天民子

日本髪悠然として背が低
し

島田からバーマに変り明
島田 七厘坊 夜叉王

断髪の娘親とは別に住み
島田からバーマに変り明
島田 七厘坊 夜叉王

敗戦後は防空頭巾ズキン の
ロングヘアが流行した。そし
てアッという間に、こんどはまた
ショートカットだ。それだけでは
深く発表された。

敗戦後は防空頭巾ズキン の
ロングヘアが流行した。そし
てアッという間に、こんどはまた
ショートカットだ。それだけでは
深く発表された。

敗戦後は防空頭巾ズキン の
ロングヘアが流行した。そし
てアッという間に、こんどはまた
ショートカットだ。それだけでは
深く発表された。

東髪にして面長を自覚す
る 借月

女優髪とは梳き髪の出来
心 本府

継母もやつぱり同じ耳隠
し 夜叉王

「川柳髪形考」の稿末には
柳髪形考を奥津啓一朗氏が執筆
された。

女性の髪形を大別して、日本
髪と洋髪に別けることが出来
る。今ここに川柳を通していき
さか明治以降の変遷のあとをた
どつてみたいと思う。

「川柳髪形考」の稿末には
柳髪形考を奥津啓一朗氏が執筆
された。

女性の髪形を大別して、日本
髪と洋髪に別けることが出来
る。今ここに川柳を通していき
さか明治以降の変遷のあとをた
どつてみたいと思う。

共がいろいろからかたり、
いじめたりしたものだが、敗
戦後占領軍の進駐とともにオ
ンリーや、パンパンなど自分
ら髪を赤く染めるものが自立
って来、日本髪のあで姿も遠
き過去のものとならんとして
いる。

戦後占領軍の進駐とともにオ
ンリーや、パンパンなど自分
ら髪を赤く染めるものが自立
って来、日本髪のあで姿も遠
き過去のものとならんとして
いる。

最近、タニシを冠つたような髪
が流行しているので、ひとつ川柳
にしたいと思って、タニシ娘諸ク
ンに「その髪、なんと云うの?」
ときいたが、誰一人知つてゐる娘
さんがいない。「髪の名は『どう
でもいい』ようだ。

「君の名は」の岸恵子が、真知
子巻きを流行させて、外国へお嫁
に行つた。

こんど帰日した時、このタニシ
の髪でアッと言わせたようだつ
た。このタニシ髪こそ、正しくは
「デュオ」というのだそうであ
る。(大阪日日新聞)

眞知子巻き残し デュオ

を持ち帰り

タニシ冠つたようなデュ
オ街をのし 一三夫

お次ぎはどんなのがバヤるのか
興味しんじたるものがある。



川柳の大衆性

後 藤 梅 志

博なども読みかけはしたが、胸奥に迫る句はすくなく多くは失望した。そこには市井人の戯れ言しか見出されなかつた。ただその中で

故郷へ廻る六部は氣の弱り

當時チエックした句は
関東震災の句

歯車の題

さきごろ或る句会で「歯車」という題が出た。選者はリアルな選者で、極めて妥当とおもわれる選者をしたが少し戦慄であった。しばらく句会から遠ざかっていた選者にとって、目にとまる句がなかつたことは止むを得ない。さて句会がはててから遠慮のない人達で懐旧談から句の品評にうつったが、はしなくも歯車の没句を中心にして議論が集中された。

歯車といふものは単なる機械の一部か。或は、歯車は歯車でもこれによっていろいろな連想がおこる。地球の回転にたとえ、人生のさまざまな出来ごとをからませるという作句態度は不可であろうか。というのが議論の分歧点になり、熱心な討議がつくされたが、その席でこの川柳の大衆性というのが組上にのぼつたのである。

歯車といふ題は単なる一例に過ぎないものであつて、類例は数限りなくあるが、良心的な選者の選

というものは提出された題にはおおむね忠実であつて、そう簡単に妥協はしない。之に反し作家の側は奔放に詩感を駆使して日頃の鬱憤をほらしくなる。真面目に生きる人はほど川柳によつて生き甲斐を求めるようとする。そこに一つの選者と作家の対立というようなものができる可能性がある。

わたしはこんなことから、川柳のもつ色々な要素、頭の中でもや

もやしている鑑賞の対照となるべき川柳と、われわれの手によつて生み出され行く川柳の必然性を分折して見ようと考えた。

わたしは中年時代を西九州の炭坑地帯で送つたが、時恰も昭和六年、七年の最不況の時代で、炭坑争議はひん発し、要件も多く、九州佐世保市と大阪の間を月に一二回は往復したが、その当時の汽車は十六時間を要した。往復の車中は急がぬ読書の時間に當て、その車中では商機を擋む禅書のたぐい菜根譚などを多く愛読したが、わ

たのである。

その頃前田雀郎氏の川柳隨筆らしきものを見た。その中に関東震災(大正十二年)の句があり、初めて川柳といふものに注目した。

関東の震災は東京横浜の全市民を丸裸かにしたものでその記憶は

十年あまり過ぎた當時もさまざま

と頭に残つており、掲載された多

くの句はみな活き活きと、當時の句だけは心をひかれた。この句はやはり名句だったようだ。

その後もよく人がほめている。井

上剣花坊の川柳もよく読んだもの

だがどうも少し卑猥なような気がした。剣花坊という名前も少し気しむには物足らぬものがあつた。

上剣花坊の川柳もよく読んだもの

だけは心をひかれた。この句はやはり名句だったようだ。

その後もよく人がほめている。井

上剣花坊の川柳もよく読んだもの

だがどうも少し卑猥なような気がした。剣花坊という名前も少し気しむには物足らぬものがあつた。

上剣花坊の川柳もよく読んだもの

だけは心をひかれた。この句はやはり名句だったようだ。

その後もよく人がほめている。井

上剣花坊の川

最後の二句は、「お前のも池に」は吉原の廓内にあつた池のこと

とで、何百人の遊女が二目と見られない姿で焼け死んでいた。

「被服廠」は、数万の人が避難したまま無惨に屍と化した本所被服廠跡のことである。

同じ十七文字でも俳句には含蓄があり、川柳にはそれがない。見

たままであり文字の一つ一つが平言俗語につながり読者に訴える。これが川柳の生命であり、俳句とちがうところである。

漱石の句

夏目漱石と云えば知らぬ人もない大文豪であるが、俳人としては余り自立たぬ。しかしその作品は専門家俳人の遠く及ばぬものをもついていた。描写の奥行の深いことと、感覚の鋭いことは、氣字の大きさと相俟って大いに鑑賞に価するのである。一つ二つ例を挙げると

雲の峰雷を封じて聳えけり

風や海に夕日を吹き落す

飯食へばまた重たき椿かな
生きて仰ぐ空の高さよ赤蜻蛉
有る程の菊掘れ入れよ棺の中

この句には「床の中で大塚楠緒子さんの為に手向けの句を作る」と前書きがある。

全く小市民的の匂いのないこうした句は、一般社会人にその人柄

も分かり、そのもつ句韻に打たれるのである。

こうして見ると俳句も川柳もみな社会の人達の要求によつて生れて来たことが分かる。専門家が、いや川柳の領分である。俳句の領分であるというは可笑しいのである。

いい句ということ

木村半文錢著の「川柳作法」に「川柳代表句選」というのがある。古川柳の良さは吾々は一応知りつくした。そしてそこには独特のものはあるが、余りに時代的に隔絶した生活の内容が一概にこれをお手本とすることを躊躇させるが。この半文錢氏の蒐めた多数の代表句は、何れも大正年代のもので、時代の良さを感じさせ、また優秀な作家ばかり揃つて、よくもまあこんな句が作れたものだと感見えた。

大正の代表句

大仏の鐘杉をぬけ杉をぬけ

五葉

いつそもう氣楽と世帯崩し也

当百

酌ぐまねをさして女将は聞くばかり

五葉

間違つて売つて屑屋はそれつきり——当百

身を売つた娘に不作続く

也 半文錢 寿は双児へ鶴と龟をうけ
と腰がぬけ 五葉
こうして見ると俳句も川柳もみな社会の人達の要求によつて生れて来たことが分かる。専門家が、いや川柳の領分である。俳句の領分であるというは可笑しいのである。

朝の風呂ヒヨイ／＼と喰場 五葉
お眼ざめか手拭に礼添えてあり 路郎
簪を人の字にして叱られる 三日峰
叩かれてよろよろと出る 朝帰り 半文錢
後添は年中風邪をひく女 朝帰り
夜薔薇売私も風邪をひきました 玩月
小袖斗あって用なき品ばかり 静波
宿帳も座敷も隣り合せ也 八翠坊
証文に絶交をした二人の名 路郎
夏瘦に無口が目立つ姉娘 路郎
國の母頬み少なき文をく もち 紋太
× ×
これらの句は豊かな芸術味をもち、如何なる人の鑑賞眼にもたえ
るばかりでなく、世態、人情の真味をうがち真に名句というべきであ
ろう。しかし作者の名前を見れば分かる如く、この作者はみな天才豊かな人達で、朝にして出来上
る作品ではない。

この「川柳作法」の代表句に選ばれた句は、全部で二二三四句で右の三十句はとつづきの約三百句
が、この辺からあと段々生彩を

神経痛・リウマチに…



大日本製薬

オサドリン錠は西独クノール社が多年研究の結果、新発見した神経痛・リウマチ治療剤です。その作用は確実で胃腸障害などの心配がありません。
(10錠) 350円・(20錠) 650円

オサドリン錠

の豪族の一人として、國の支配者になつたので、後の大化の改新まで、いわば豪族の連合国家であつたと考えてよいのであります。神武天皇や日本

(17) 朝鮮半島と日本

古代アジア史における漢の地位は絶大でした。半島の北半分は漢の領地で、半島人はは

飛び込み、百濟や新羅を属国にしました。そして大陸文化をどんどんとり入れるのであるということを知つて貰わねばならぬ。

大衆の生み出すもの

然ばに吾々の作る句はどんな句であつたらよいかという疑問が、当然起る。

これに対して私は非常に苦慮した結果、この儘がよいという結論を得た。

既に大正の末期に於いて行詰りが来た如く、戰災直後、人心の復興とともに殷盛を極めた川柳界も、一応行き詰りが来たと見てよいと思う。昨今の世の中も各方面で行き詰りつつある如く、実は川柳界も行き詰ったと見るのが妥当である。これは自然の勢いで如何ともすることが出来ないが、俳句に於いて過去の歴史が語る如く、私達の祖先は必ずビンチに際してはビンチヒッターを送ることを忘れないかった。それが、芭蕉であり芭翁であり、子規であつたことを銘記してよいだろう。

句には眞実を

さて前に戻つて一応終止符を打たねばならぬ。

吾々の作句活動は、これからもずっとつづくのである。所謂「川柳の大衆性」とは、柳歴の古い浅いを問わず真剣に句と取組むことと解したい。

肝疾患・疲労・二日酔

★総合強肝剤
リホコール
(12種の成分を配合)
20錠・50錠・100錠



吾々はつねに満ち足りないものをもつていて、衣食の足るとか足らざるとかを問わず、人の世の苦惱を身に受けている。これが作句によつて救われるべしと知つたら、真剣にならざるを得まい。吾々の身邊には、川柳そのものが生活だと親じ、心にも染まぬ職業の傍ら、紙と鉛筆を離さぬ人が多い。ただ、芸術性を無視した大衆性は或り立ちそむないことを知るべである。また同時に、大衆性を無視しては芸術は停頓するばかりだといふことも顧みなければならぬ。川柳は描写であると同時に、一つの眞実でなければならぬ。それでなければ良い作品は生れないと云ふことを銘記したい。



ジニツキ

中島生々庵選

大ジヨツキ娘が持てば一寸でれ
淑女連注文したは中ジヨツキ
二ア人のジヨツキはおんなじ教でやめ
タインのジヨツキの魅力に負けている
大ジヨツキ私も負けないイヤリング
重そうな音でジヨツキ飲みはされ
乾杯は嬉しジヨツキの泡がこはれるよ
中ジヨツキ一につきに空けた娘にあわて
大ジヨツキ儲けた話聞きあきる
若社員ジヨツキで不満吹き飛ばし
乾杯へ女もジヨツキ持つて立ち
かち合わせジヨツキ虚勢も張る世態
大の男が小ジヨツキもてあまし
帰えても待つ人のない大ジヨツキ
握る手の重さが好きで飲むジヨツキ
女客ジヨツキのおかわりほしい顔
川風へジヨツキの泡がふきこぼれ
飲みませぬジヨツキ片手に渋い顔
光福

大ジョッキ胸のゆたかなホックレス
入社一年ジョッキ持つ手も青二才
これからジョッキは敵を陥落すわな
大ジョッキ意外に大きいのとだけ
座るより立つてジョッキの都合よし
胃袋の方があきれているジョッキ
コレクション呑まぬジョッキで櫛飾る
お師匠さんの腕にジョッキは重すぎる
紅一点すました顔で大ジョッキ
浮かぬ日は妻がジョッキへいでくれ
ウソもつくその唇に先ずジョッキ
生ビール泡がジョッキにみな残り
乾杯のジョッキ大中小で上げ
大ジョッキ天皇杯のようになけ
一口で重いジョッキが軽くなり
失恋にジョッキの泡もよくこぼれ
知った顔にジョッキを高くぶつてみせ
酔っている客にジョッキもついて行き
栄転の友人へジョッキが小さすぎ
木入らず樂しいジョッキのまわしのみ
第二次会はジョッキ一杯宛と決め

乾杯のジョッキへ流れ星が飛び
土曜日の午后をジョッキが誘惑し
ボーナスが出た日をジョッキ知つて居る
ビヤガーデンジ ヨッキが高いものにつき
大臣をときおろして大ジョッキ
ボトからおりてジョッキの客になり
大ジョッキ花火の見える店選らび
ビヤガーデンジ ヨッキが高いものにつき
大臣をときおろして大ジョッキ
ボトからおりてジョッキの客になり
大ジョッキ分けて夫婦の仲の良さ
小ジョッキの泡が気になるみみづち
ジョッキ片手に月給二倍論 同
アロハシャツジョッキへ吹散捨て立ち
パパよりもママがジョッキを派手にあけ
一人なら一人の味ある大ジョッキ 同
退院の足がジョッキの泡へ向く 同
ジョッキへうつぶんは平社員 旭
ヘンタリはジョッキの泡で消えて行き 雄
旅はよし女房もジョッキ呑むと云う 木
二次会の顔はずらりと大ジョッキ 代
ジョッキの空がたぎな音を立て 仕男
涼しそうにジョッキ次々運んで来 蘭
恵二朗

一
人

福田妄夢選

大ゾヨヅキ持たせてビントまだ合わず
宗太郎

なれて見て一人のよさが判りかけ
団体は一人のいびきもてあまし
祖母一人いて信仰の灯をつなぎ
一人しか生まぬつもりが三人目
参観日男一人がよくしゃべり
紅一点だからもてている事務所
反対の一人が寄附を止めさせる
どっちみち一人ぢやないと誘われる
変人の一人暮しが性に合い
海木治一人で行つたのが不覚
新婚へ一人の癖が抜けきれず
一人ではないと指紋へ刑事の目
女ひとり飲めば失恋かと云われ
文化財の一人が消えた隅の記事
時間通り来れば一人も来て居らず
一人になってから女房の土産買ひ
オルゴール鳴らし女一人の間
一人一人みな宿命の施設の子
末席の一人静かに口を切る
この次はお一人でネと抵ねれる
一人来た湯の宿いい頬してくれず
年頃へ世間が一人にしておかず
真にうけて一人でゆけばほととかれ
出戻りへ母親一人氣を使ひ
下戸一人ひつきりなしにつまむなり
しゃべり手が一人抜てる座談会
表面は一人で通す未亡人
気の強い女一人になつて泣き
世話を一人のこして海へ行き
絶景へともの足らぬ一人旅
茶柱が立つても一人で喜べず
自転車へ一人で乗れる子を写し
金種を一人のこして丸く済み
人生が一人の女から狂い
一人の方がよほどええと出戻りが
天の邪鬼が一人相談まとまらず

三九

那谷光郎選

床柱一人を空けて席につき淀月多産系どうにか一人ものになり九呂平
佳 当日になつて飲み手が一人ふえ文庫分け前に洩れた一人が口を割り井蛙一人で乗つたボートは波まかせ青園人お茶お花料理が出来てまだ一人光子
地 天 朝寝する奴が一人まだ涼み鶴汀
おめあての一人がこないクラッセ会 唐佑
目ざまし 那谷光郎選

約束の明日へ目ざまし貸してくれ
ああ眠ない眠ない目ざまし止めて寝る
ピース一本目ざましにするパパの朝
目ざましい人出すつからんの僕
目ざましの事で朝からまたけん
目ざましも貰ってパチクリ眼が開き 同
目ざましをちよと進めた親心 保
目ざましをなしかめ合うて共稼ぎ 纏
目ざましきてはす寝像を叱られる 雄々
目ざまして放蕩息子が詫びを言う 定
母の日に母目ざましの先に起き 宗太郎
交代制昼に目ざましかけておき 忠三
目ざましの葉子父ちゃん食べてまい 暖
目ざましへすでにお化粧すみ姉 八九寸
目ざましでさち出して寝直す気 井
目ざましの役を寝てすみ父が買い 同
目ざましは子供が泣いて早くなり 龍藏
目ざましに盗人不意を打たれたり 卵之助
目ざましの代りにふとんめくられる 齋佑
長尻へ目ざまし二三度鳴らしてみ たけお
目ざましもう鳴ったかと起きてくる 初甫
朝寝坊目ざまし抱いてぐり込み 光福
目ざましの役にたたない若夫婦 山椒坊
目覚しを信頼して乗り遅れ 雪美
アタカサリーのように自覚し床へ置き 祥月
目ざまし前に住込目を開き むじな
よろめいた父へ乙女の死の抗議 盛治
時計屋の目ざまし勝手な刻に鳴り 蛙木
目ざましに支配される定期券 文庫
目ざましのかわりもとる寺の鐘 孝風
はじめられた様に電話へ目をさまし 代仕男
目ざましに一杯ドヤとは話せるね 恵二朗
大穴へ鞭目ざまし貰う親も無く 蘭
不運とは目ざまし貰う親も無く 古心

An advertisement for Tachikawa Pen. The top half features the text "品質優良" (High Quality) and "タチカワペン先" (Tachikawa Pen Nib). A large, stylized calligraphic character 'L' is drawn across the page. In the center, there is a drawing of a pen nib with the brand name "TACHIKAWA PEN" written on it. The bottom right corner contains three smaller text entries: "タチカワピン", "タチカワゼム", and "タチカワ画鉛".

柳界

句会

▼本社十

・片言・税金。▼第六回全九州川柳作家大会は九月二十五日(日)

の物故者、及び現会員の作品を収録した合巻句集、B六版、二二〇頁、定価二〇〇円、送料三三・四円、

午前九時から福岡市N.H.K放送会館で開催。▼国鉄加古川地区川柳

会は九月十八日高砂神社へ吟行。

申込先は青森市大字石江字平山一

頁、定価二八〇円、送料二四円。申込みは神戸市垂木区舞子

九北柳吟社発。▼房川素生句集

「道」が昭和三十五年十月五日発

される。生活川柳派と云われる著者の神戸柳界に四十年活躍され

た歲月の哀歎が五百数十句に採録

されている。定価二八〇円、送料二

四円。申込みは神戸市垂木区舞子

井上清三

氏(大阪

市)はフラン

スのエビアンで開催される国際

「よく稼ぐ

一休み」

夫婦にもあ

られた。

句会が挙行

された。

幕式、記念

券

の購入

れ、八月十
四日前十
一時から除
幕式、記念

券

の購入

月十六日高千穂の山岳の続きの海老野高原ホテルで静養されたと。▼石川侃流洞氏（下関市）は昨秋以来高血圧症で作句に遠ざかっていられたが、八月二十一日山口県川柳大会に出席された由。▼正木竜樹氏（金沢市）は九月一日金沢を発ち、西日本川柳行脚の旅に出られるが、その帰途大阪へ立ち寄り十一日の本社大会には是非出席したいと。▼田中辰二氏（熊本市）は昨秋以来医師から或るべく安静にと言渡され、又右腕の神経痛で御不自由な日を送っていたらる由。▼燕村梨花さん（大阪市）は七月三十一日上京、大学で「織維学」の講義を受けられた由。

「東京の汗拭いてる国言葉」の句信を寄せられた。▼浜田久米雄氏（岡山市）は七月三十一日岡山を出発、八月十四日まで、東京の中央鉄道練習所研修寮で講習を受けられた。▼山田季賛氏（広島県）は七月十六日から二日岡山北部の恐羅漢山登山コースで過ごされた。「山越えのコースを選ぶ足なし」▼河相すむ氏（西宮市）は七月下旬社用で上京、茨城大学へ所用のため日立市に足をばされた由。▼越智一本氏（今治市）は八月九日原水爆禁止世界大會へ今治代表として出席のため上

京された。「一人が歩いて東京人のふり」▼福田丁路氏（高槻市）は八月一日から三日までの盛岡での研究大会を終え、十和田湖を周遊。湯瀬温泉に遊びれた。「十和

石。八月中旬に退院出来る希望的観測のこと。「隣床退院附添いに見送らせ」

慶弔用

▼布部幸男氏（京都市）は七月二十七日一貫百々という男の子をも

うけられ、新（あらた）さんと命名された。▼平田三十郎氏（大阪市）は八月七日長男出生、陽一さんと命名された。▼西村梨里さん

（河内市）は九月二十一日男児出生。お慶び申し上げる。

▼岩崎一伸氏（大阪市）の母堂雪さんは八月三日朝胆囊炎で死去された。行年七十一。謹悼。▼田中

烏耕氏（大阪市）は九月十二日肝臓ガンのため死去。十三日

南区島の内三津寺で告別式が行われた。氏は医博、元不朽洞

会員、謹悼。

（内 容）

院楼上で開催、
一、席題の件
一、賞品の件
一、大会委員依頼状の件
一、表彰者への記念品贈呈の件
一、その他の件
右を審議九時散会した。出席者

会から
南詰中島小兒科診療
（董）
正誤

▼六月号二十九頁下段十六行目清

木浅太とあるは蓮池風草の誤りに付訂正。▼八月号十六頁上段二行目の句主名紫香とあるは紫光の誤りに付訂正。▼前号四十九頁上段二十五行目の句主降夫とあるは降史の誤りに付訂正。

▼中島生々庵氏の居宅の電話が自動式に変り、局番が左記の通り改正された。堺⑥局〇八二四番、一七五番。

★常任理事会 七月
二十六日（火）午後
（董）

小兒科診療院楼上で開催。
会実行委員会は八月二十七日（土）午後七時から南区三休橋南詰中島

は路郎師、生々庵、文蝶、桑、竹莊、薰風子、多久志の諸氏。
★川雜誌壽四百号記念祝賀川柳大

会



北川蕃茶会
(宇都宮市) 第十回記念句会
三五・七・三 写真説明(前列左から三宅・如月・出雲
眞裕・高木勝也・木山達二・佐内隆文・大山竜子
・中羽左から木山一・中柳・山口・山中・川井
・大山山父・後列左から三宅・伯洋・木山一光・川井
・森木・三宅天平・坂本貴哉・森本康幸・大山勝人)

市住吉区粉浜東之町
三ノ七一へ。▼志水

▼平沢保美氏は大阪

市

事務所

主 席 麻 生 ア ト

ト

事務室

新児童音楽サークル

TEL 生駒 27番

TEL

TEL</

田満な夫婦に精薄児が生れ益子
田満な噂の人に二号がい杏
田満な見本にされた窮屈さ生薑
田満にすれば姑が気を廻しこん太
こと切れてから田満な相になり宰子
麿面のままの見合で氣に入られ季宇
旧式と云いつつ娘見合をし昭子
お見合に馴れて三十路に手が届き天童
親の氣も知らずに見合すっぽかし
男のみな頼りにならぬ見合擦れ竜児
手鏡が見合の朝へ小さすぎ賢也
恋人にことわり見合だけ済ませ漠太
写真とは三つ四つ老けいた見合
お見合をしてから婦長かどが取れ
手不足を猶は横目で眠つてい柳谷
握手だけ別れた彼が物足らずあきら

川雜弓削支部句会

べれけの醜態夫に見せておき
とつときを出したな縁談ことわられ
ぐてんこに飲ましてあと頬み状
へべれけに肩を貸してあるあらしき
習慣は恐いものだと子がしめし
集中豪雨になる雨がまだつき
実力を寒涙ごときに狂わされ
実力に生き実力に裏切られ
ワキ役への拍手と主演気がつかず
ワキ役とも云われ取巻とも云われ
表彰もつづましくいる助演賞
ワキ役でよしやり甲斐のある仕事
敷いといて脇役ですとまつして
食べ切れぬ割勘しぶくんやしがり
母ちゃんを探がして蚊帳の中を這い
蚊帳一杯にオラが娘は気味悪し
実力で仕上げてみようこの仕事
実力ない奴が押す横車
実力が蚊一匹の平手打ち
八百長と言われ実力気が減入り
ワキ役に本当の芸を教えられ
しぶちんで通り寄附など言うてこ
好 郎
吸江 青一蛙
廣田郎 駒
古方
圭太
狂二
好郎
雄声
浴邦
末一
圭井堂
生々庵
左久良
紡手
青蛙
南宗
東天紅
白柳
徹也
新石

不足げに茶碗を叩く夕御飯
持参金が娘の不足をカバーして
父病んで手入不足の桃が落ち
ビタミンの不足に酸っぱい夏みかん
飲み足りぬ顔で課長をおだてあげ
ことごとに不足をこぼす反応期
愛情の不足が招く置き手紙
家中の不足は嫁がみな背負い
満ち足りた家に子供の無い不足
ホルモンの不足か妻のとげとげ
待ち受け同志と知つて笑い合い
待ち受け食った二人が笑い合い
待ち受け週間雑誌読み終り
待ち受けビルの灯一つ消え
待ち受け洗濯物が気にかかり
待ち受けずっと氣付いた四月馬鹿
待ち受けの子へ誘惑の魔手がひび
けつ飛ばす小石もうない待ち受け
待ち受けさせて愛情たしかめる
待ち受けは二時間の待ち受け
ことよりもせぬ言所に姑がおり
汗だくになって浮気には出し
解散に備えて暑中見舞が来
夕焼がキャンプする娘の肌を染め
返えり血を浴びた安保を不安がり
アベックで歩きました娘は素直
汗だくになって浮気には出し
解散に備えて暑中見舞が来
夕焼がキャンプする娘の肌を染め
ママにさえ見せない顔で子をあやし
善人に世間の人がしておかず
十代の恋がヨットの帆にかくれ
赤トンボ今日は裸の子に追われ
ママにさえ見せない顔で子をあやし
アベックで歩きました娘は素直
汗だくになって浮気には出し
解散に備えて暑中見舞が来
夕焼がキャンプする娘の肌を染め
返えり血を浴びた安保を不安がり
アベックで歩きました娘は素直
汗だくになって浮気には出し
解散に備えて暑中見舞が来
夕焼がキャンプする娘の肌を染め
ママにさえ見せない顔で子をあやし
善人に世間の人がしておかず
十代の恋がヨットの帆にかくれ
網棚に日傘が残る終電車
何時までも人陽に残る二人連れ
ストッキンのそれが疲れを物語り
肉体を売り物にするニユーフェース
結婚をしてからがめついい兄になり
結婚はもうこりこりと若い後家
天仁坊

米子支部句会

汗かきが働きものと見込まれ
刻まれた苦勞の皺に光る汗
廻り路いとしあの娘を一目見て
広き路わがもの顔のマッハ族
路地裏に住んで都會の垢にしみ
雨上り浴衣に匂う薄化粧
遠足口惜しがらせる俄雨
コンベアの戀に流れる俄雨
借りた傘返しに行つて又降られ
何が不足か金魚鉢から飛び上り
お互の足らぬを夫婦愛で埋め
ホルモンの不足かマダム皺がふえ
踊子の前をうろちよろカメラマン
あんた達踊りやセーネで連れ込まれ
油罐叩いて踊るダメ現場
あなたでもやれる内職あてがわれ
寄りそえば貴方の影も寄つてくる
先妻のあなたあなたが忘れかね
下手こそ日曜大工にお茶を入れ
休日と云えば女房カンナ出し
器用さが崇り日曜酷使され
監督は坊や太工はパパの役
ベテランに委せておとつま逃げ
ベテランになつて税金さらう増え
ベテランが釣つた頬で買つて米た
ベテランの意見なるほとなるほどな

川雜
字部支部句合

道なおし手よりも口がよく動き
低くければ頭も打たぬ人の道
通り魔によく似た顔に逢う小道
値切られた客へお世辞のいる小店
村娘都会のあかを付けてふけ
しけ続き手持ち無沙汰の箱作り
ジャズ植え親父の小言うわの空
暑中見舞これも裸で書いたよう
借金はないが人情に借りが出来
口説かれて見たい女にある魅力
なつかしいレターへ不足料払い
あじさいの末一色に気を直し
短かめの浴衣もなつかし里的夕
交りだね当分女の話題増す
仏像の説明英語も中に入れ
思春期へ真相知りたいことはかり
雄
青
香
女
々
一
机
虞
芋
精
人
究
天邪鬼
精
人
一
保
無
閑
丸
鶴
青
香
峰
秀
康
三
舟
々
堆

酒場は悪くはないと思ひ少しでも三
腹いせに欲しくない酒女房飲み 素
瓢舟 川端康成

津秋六花報
伊三男
艶棒の調子へヨットしぶきあげ
まだ寒いヨットへ木着で女撮り
窒息を救うパイプをつゝ拵み
窒息に旧看護兵が腕を見せ
窓見をする程抱かれ嬌しがり
白帯に締め落された間の悪さ
小説家自分の過去も金にする
小説で泣かせ映画で又泣かせ
窓見の小説一字一字読み
群衆の中のサクラが拍手する
群衆の心理指揮者の手におえず
群衆を少し離れた松葉枝
拘摸ひとり居て群衆を騒がせる
群衆の上へ太陽てりつける
人参も添えて仔馬を市に連れ
新記録神宮アールで教えた娘
日焼した肌でアールに巾がきき
色あせた水着アールへよく泳ぎ
山中が泳げばアール小さく見え
墨詣り済まして踊りの輪に混り
ナタラナタと落書には惜しい文字
六 豊 實 良 男 男 年 花

停年に近く暮りしも地味になり
地味に生きる気世間へ眼をとじる
遭難が続いて山に宿がつき
遭難の予感後から愚痴になり
遭難を生きて返ってトップ記事
人工呼吸祈る心に見守られ
目かくしされて坑から生き残れり
へそくりを掛けた月から待つ満期
あきらめた旅行朝から晴れ上り
浪人を二年進学をあきらめず
見上げても止みそうでない雨へ読み
新婚の駅まで行きたい雨を待ち
雨具持つ持たぬで出勤少しもめ
恋を知り親に平気で嘘が言え
方便の嘘さえ正直気がとがめ
舌出しているとも知らず信じかけ
大穴が出て予想屋の声がかれ
大声で喋る田舎の人好し
山彦を呼びたくなる空の青
大声の中に正直ものがいる
川 雜
高知支部句会（高知市）

高知支部句会

大西迷窓

銀の食器巻き斜陽に客があり舟遊
戦乱に生きて銀貨の音ためす満秋
妻も子も捨てて夢中な恋に落ち
ジャズソング黒人歌手の白い服
ジャズ狂で飯を食う間ちりズミカル
ふ邪器でかえつたびよこのづぶらな瞳
一番鶏聞いて体温計をとり
雞の世話して中学生となり
悪太郎という太陽が我が家にも
太陽を虚勢の肩で受け博徒
太陽に両手をあげた盲学生
太陽へボキ骨を鳴らして見
太陽の下で野良大生きて いる
何事も控え目でいて銀が好き
銀紙を剥ぐおののきに人と在り
新子

南海電鉄川柳会

大陽市

橋本早耶
革のわき毛にわいた無はん心
する夫は達者と詮める
臭い淫氣地下道うろちよし
のせ、こころへる二日春
愛論

大阪遞信病院川柳合

歩いても歩いても峰近寄らず 瑞川
別室へ社長さつきと消えて行く 珊枝郎
別室は別棟おはこび傘をさし 阿茶

杏林川柳会（大阪市）

一步出里や極楽とんぼ帰り来す
子沢山芽が出る頃にふけており
芽が出たと感うたとん呼びに出る
極楽なんてフフンと笑う十世代
芽が出ぬと今日も朝酒のんでねる
さつと芽が出て廻転椅子のかけ心地
菊の芽を貰つた方が貴に入り
金もある名も得た後は極楽よ
極楽へ来てあの人が見当らず
ネオ・オンライン極楽のよう錯覚し
夕立へもう傘売りのターミナル
待望の夕立客足までさらい
妻と歩く心懐橋は無口なり
生々庵

帝化川柳

卷之二

延着の為に学生気をばもみ句念坊
延着と判つて相手が納得し音吉
延着にマイクは慣れた訳を言い武進
延着にしてこの空氣へ飲むときめ宏山
延着の説明ボッボッ社へ歩む貴山
延着を妻も一緒に言訳しなんき
延着に便乗組も現われる武進
延着をしたのに相手まだ来てす和郎
延着も苦になりません二人連圭本
延着をつなぐ音楽長すぎる路郎
人生の試練六十路に尚足らず句念坊
家族券後一枚を貸してくれ武助
家族券お金と暇がもつとほし宏子
沿線を我物語に家族券狂二
家族券今日は妹にして貰い昌男
家族券貸して欲しそな話し振りみなつき
家族券息子が使うほどになり圭本

反対を押した結果破裂去り
浪花節子が反対の多數決
白い物黒いと言いたい人もいて
反対の昔忘れて孫を抱き
店先で子供に無理を道される
無理難題言うたは知らぬ二日酔
無理をと乗つたバスだが追い越され
子の無理を聞く薄給の膳に座し
雅堂一雄柳暉影柳男夫柳徳一

理髪屋の指へ芸者が惚れてくる
紙芝居指をくわえた兎もまじり
バスガール指さすところ名所にし
女房の金もうけ家にとじこもり
金うけ此處にもあつた川ざらえ
芝居見たさおばあちゃんし針
本妻と二号へ愛情使い分け
情けを受けて路傍に生きており
お情けで貯せばなかなか立つかず
行きすぎりの情がパパとママになり
御厚情謝して公約ふみにじり
にせ物ににせものありと朱で書き
にせものをつかまされてるケチン坊
にせものを本物にする香具師の舌
鉄斎の偽筆を祖父は秘蔵にし
王冠とラベルにせものとは見えず
好祐
甲子朗
柳影
雄水
三明
孝夫
好祐
柳影
一平
京一樓
雅堂

残業というには少し醉が過ぎ
飲むうちに嘔あなんかと嘘を言い
嘘の顔まとめて終は動き出し
退院の日へ思い切り化粧をし
不美人を言わず化粧のせいにし
鏡台にセスチニア残す紅をつけ
化粧してもやっぽり低い鼻があり
化粧する楽しみ女だけが知り
あきらめか自覺か娘の薄化粧
コンバクト心の崩れまで写り
たけるベ川柳会

千日前大劇裏
TEL(66)二七一〇
アベノ橋近映地下
TEL(77)〇一四七
大萬
梅里の店
★大万川柳(第百十六回)を募る
兼題「先生」 路郎先生選
締切・十一月十五日 五句以内
投句先 阿倍野区松崎町三ノ一〇
(店舗表示)
大万川柳会宛

路郎
メモ



★前号の「四〇〇号特集」はお蔭で予想以上に好評だった。ココでホッとしたダメだぞ。あすから五〇〇号を目指して前進あるのみだと編集局は湧き立っている。

私としてもそれに異存はない。

★回顧嫌いの私でも勢い回顧しないではいる、悲しみも喜びもの幾ヶ月だった。一冊一冊と積みあげて来た三十七年の間には世界戦争で敗戦の憂き目を見たし、

★要するに誌寿四〇〇は川柳に対する私の情熱の所産である。それ

にしても、この情熱は私の終焉の日まで燃え続けることであろう。

★誌寿四百の祝賀記念大会は不朽

洞会の人達に依って盛大に厳粛に行われた。私としてはあまり派手にやらぬよう、お祭り騒ぎに終らぬよう、特に望んでおいたが、そ

の点式典なども中庸を得ていて、そ

まことに嬉しい集りであった。

徐々に大会気分を盛りあがらせ、

なお店を遠しともせずに、二十年

三十年会わない柳友の参加には終

のよろこびだった。有難う。★特

集号ははなばんしく出た。記念大

会では多くのなつかしい顔、顔、顔に接した。次にはまだ記念出版がある。この壯挙に対しても皆さの支援を得て有終の美をおさめた。★物事は何んでも、これでよいという説にはいかない。雑誌の編集にしても、大会やその他行事にしても、予測しない不行届きもあるだろうと思われるので、その点は老骨に免じてこの憲恕が願いたい。そして今後の「川柳雑誌」に倍旧のご支援をいただきたい。★最後に、近来郵便局の運配、誤達が甚だしいので大変ご迷惑をおかけしているが、弊社の力の及ばない、郵便局のなすワザなので、その点お含みの上、一般的世論で、排撃するようご協力が願いたい。近く選挙も行われるので、ここで一步善政へ踏切れるようお互に監視してもらいたい。

・ ペンの散歩

▼ツバメが軒から帰つて行くと、

こんどは雁が月の空へやつて来る。爽秋読みものとして、霞乃女史の「南紀一泊」田中美喜子女史

(辰二氏夫人)の「川柳繼承」等女性の作品をハシラにした。前号の動、本身の静というわけだ。

▼梨里前編集長のおめでたで主幹

をもたれたことになる。九月は

よろこびことが重なる。▼本社

句会の会場が、改装成った大阪観光ホテルへ行く。月例会場として

はおそらく日本一大と思う。▼あと二冊でまた新年号だ、とにかく

嬉しいが楽しい日々だ。(一三夫)

★十月の会々 川雑支部

・ 倉敷句会・1日(土)六時、題

・ 広告・勝負・スクール・思い付き・事故・所、相原一善居・淀川句会・3日(月)六時、題・信頼・御都合・彼女・所、十三西之町

・ 五丁目東淀川郵便局・宇部句会・2日(日)一時、題・理性・取引

・ 盲点・恩師・所、宇部市営バス終点前興成労会議室・かがみ句会

・ 5日(水)夜、題・苦勞・ダメ・麦族・別居・所、池田古心居

・ 王造句会・10日(月)七時、題・地図・エチケット・弱音・所、市電玉造南百米大阪信用金庫・京

都句会・16日(日)夕、題・仰ぐ・虚病・蛸・所、四条辻手仲源寺

・ 玉出新町通一ノ一一藤梅志居題・先生・しゃれ・こおろぎ・所、

★にしなり句会・16日(日)六時、題・外人・反対・所、阪神西宮駅

・ 鳴尾駅東南三百米鳴尾公民館・西宮句会・21日(金)六時、題・本

棚・外人・反対・所、阪神西宮駅

・ 北出口スケ市立労働会館・阿倍野句会・19日(木)六時、題・遠慮

・ 低音・シーナン・所、旭町二丁目

・ 金塚会館・備前句会・題・火鉢・電鉄句会・27日(木)六時、題・

・ 難波親和クラブ・弓削句会・月末

・ 切、題・電話・地図・感傷・他

・ 御送金は川柳雑誌社振替口座・五百番をご利用が便利です。

・ 五〇番をご利用が便利です。

・ 切手代用可

東野大八著
人間横丁

価二百五十四円
送費三三四円
B6型

風流人間横丁

★異常な戦争にまき込まれ隻手となつて帰還した著者のザック・バランな人生批判

が、その雄筆からほとばしるさまは凄い。まるで腕の冴えた板場の切れ味にも似ている。

★本稿は戦後十三年間、「川柳雑誌」に掲載され、好評、サクサクたりしものに補筆した雄編である。随處に川柳に関する卓見もあり、肩の凝らぬ読物としてお薦めしたい。

★出版予定日・昭和三十五年十一月中旬・五〇番を川柳雑誌社振替口座七五〇五〇番をご利用が便利です。

★ご送金は川柳雑誌社振替口座七五〇五〇番をご利用が便利です。

▼著者は曾て創生期ごろの超現実主義者であつたがその詩論は詩人の民衆的立場を要請した/今は柳界にあって庶民の詩人的自覚を促す/ここに川柳雑誌社が誇る現代川柳批評家として世に送る/凡そ前向作家を自負する柳俳人絶対必読の書

詩川柳考

B6型函入 定価三百八十四円 送費三三円

▼著者は曾て創生期ごろの超現実主義者であつたがその詩論は詩人の民衆的立場を要請した/今は柳界にあって庶民の詩

人才・急用・世渡り・誤解・南海

・ 単線・うやむや・泣き寝入り・所、

・ 難波親和クラブ・弓削句会・月末

・ 五〇番をご利用が便利です。

・ 五〇番をご利用が便利です。

・ 五〇番をご利用が便利です。

・ 五〇番をご利用が便利です。

大阪市住吉区区内
川柳雑誌社

振替口座大阪75050
電話 大阪 6081

発行所

万代西5丁目25

(毎日新聞評)
麻生路郎さんは明治三十七年から川柳を手がけているというから川柳歴はもう五十五年にもなる。この新著は麻生さんが毎月出しで、ひとつひとつ丁重な注釈を加えて、鑑賞の手引に資そうとした

発行所 川柳雑誌社
電話 大阪 60-081
郵便番号 大阪七五〇五〇

大阪市住吉区内万代西五丁目二五番地



お買物は…
清く明るく美しい



大阪梅田・水曜定休
阪神
電大代表(36) 1201

川柳雑誌

好評 嘴々

B6版
二五〇頁
送費三二円
価格二五〇円

printed in Japan

発行所

川柳雑誌社
電話 大阪 60-081
郵便番号 大阪七五〇五〇

(禁転載)

B列5号 每月一回一日発行
川柳雑誌 第三十五号

定価 七〇円
(送料四円)

昭和三十五年十月一日発行
半カ年 四四四円
一カ年 八四〇円

▼

投稿規定
各句は各種必ず別紙に認め、住所氏名を明記する事。
「近作柳樽」は一般作家の雅吟を募る。
「川柳塔」の投稿は誰でも不朽潤会員に限る。

▼

文川柳塔
(雅詩十句以内)
章(評論・研究・感想其他)
北川春巢選
麻生路郎選
近作柳樽
(雅詩廿句以内)
文川柳塔
(雅詩十句以内)
章(評論・研究・感想其他)
北川春巢選
麻生路郎選
近作柳樽
(雅詩廿句以内)
文川柳塔
(雅詩十句以内)
章(評論・研究・感想其他)
北川春巢選
麻生路郎選

▼

毎号募集
国正弘水
日本水
半休客選
選選選
西尾藤井
梅志
小松園選
選選選
西尾藤井
梅志
小松園選
選選選
西尾藤井
梅志
小松園選
選選選

募

集

食品と科学

食品と原資材・機械・包装の総合誌

10月号発売中

130円(12円)

特集
菓局食品は増えるか
豆乳は脚光を浴びるか
生活の中にコーヒーを

◇ 欧州と地中海域の果汁生産と消費
◇ 粉末ジュース談義
◇ 認識高まるショ糖脂肪酸エステル

◇ 菓子講座 ◇ 添加物講座
◇ 海外情報 ◇ 特許告知板
◇ 意匠ニュース ◇ 商標ニュース

〔展望台〕主食・罐詰・菓子・酒類・添加物

大阪市北区木幡町555
電話345231-4 食品と科学社 振替大阪6702番

川柳 親ごころ子心

若本多久志著
麻生路郎序

価格 150円
送料24円

スコートで
着心地のよい

O.S.K.
レディースード

阪神 大坂商店
大阪市浪速区岸町一丁目二番地
電話(94) 745-5563番

昭和廿二年七月一日
発行(毎月一回) 第二種郵便物認可

編集人
発行印刷人

麻生幸二郎 発行所

川柳雑誌社

大阪市住吉島区内方代西五丁目二番地
電話大阪666-6081

新宿口座 大阪750-500

定価七十円(送付四円)